

平成 30 年度
自己点検評価報告書

一関工業高等専門学校
点検評価委員会

平成30年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：教務委員会

報告者（役職・氏名） 教務主事・明石尚之

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
委員長	明石 尚之	別添 01-1-1, 別添 01-1-2
教務主事補	三浦 弘樹	〃
〃	伊藤 一也	〃
〃	照井 教文	〃
〃	高橋 知邦	〃
委員	小野 孝文	〃
専攻科長	中山 淳	〃
生産工学専攻長	中嶋 剛	〃
物質化学工学専攻長	岡本 健	〃
学生課長	中山美喜也	会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 未来創造工学科における第3学年以上の共通科目・横断科目の具体的な内容審議。
- (2) 平成31年度移行予定の高専機構統一教務システム「学生情報システム」への準備作業。

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1) 未来創造工学科における第3学年以上の共通科目・横断科目の具体的な内容審議。
→未来創造工学科運営会議を中心に内容の検討を進め、第3学年については平成31年度の新規科目の準備を行った。
- (2) 平成31年度移行予定の高専機構統一教務システム「学生情報システム」への準備作業。
→高専機構本部の指示に従って、本校の教務システムの出力データを提出した。また、「学生情報システム」への移行を想定し、本科推薦選抜・本科学力選抜の合否判定プログラムを完成させた。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

【進言1】

緊急連絡訓練のさらなる返信率向上の検討をお願いしたい。

【対応1】

緊急連絡訓練については、教務委員会による教室掲示の事前アナウンスと実施後の消防避難訓練における教務主事の講評により、参加を促す呼びかけをしている。全教員からの声かけが有効と考える。ちなみに、平成30年度の返信率は80%で、前年と比較して2ポイント上がった。

【進言2】

アクティブ・ラーニングを取り入れた授業公開への参加者数向上について、引き続き検討をお願いしたい。

授業見学の参加者が少ないので改善が必要と思われる。

【対応2】

アクティブ・ラーニングを取り入れた授業やその他の公開への参加者数向上のためには授業改善の雰囲気づくりが必要と考え、今年度は1月に研究授業と意見交換会を実施した。今後の参加率向上に期待したい。

2.4 前年度からの改善(変更)項目(前述の改善の進言への対応以外)

- ・全日本学生フォーミュラ大会への取組を課題研究Ⅱとして単位認定することとした。
- ・平成30年度に寄付講座「起業家人材育成塾」を創設した。第1期の受講生は10名であった。

また、平成31年度より以下の事項を実施することとした。

- ・3つの教育方針を改正する。
- ・業務効率化のため、第4・5学年の副担任を廃止する。
- ・校外実習を第3学年夏季休業期間から実施可能とし、また、2週間以上の実習で2単位認定する。
- ・工場見学旅行における東京解散後の行動確認方法において、担任負担軽減をはかる。
- ・留学生専用科目の「工学基礎」を廃止し、補習の形態によりニーズに合った指導を行う。
- ・学生便覧に学生向け掲示物の案内の項目を加え、学生の便宜を図る。
- ・工場見学旅行の参加経費徴収で、学校が預かり金をもつことを回避するため、平成31年度第3学年の学生より、旅行代理店が積み立て等により集金する仕組みに変更する。

2.5 来年度の年度計画

- ・未来創造工学科における第3学年の新設科目の実施。
- ・未来創造工学科における第4学年の横断科目の具体的な内容検討。
- ・実験実習における実験スキル評価の試行。

平成30年度 教務主事補担当委員会一覧

	委員	担当	備考
内 部	広報室	三浦	
	評価対応部会	高橋・三浦	
	保健管理センター運営委員会	照井	
	国際交流委員会	伊藤	
	教務委員会 実践教育部会	照井	部会長
	教務委員会 知財教育部会	照井	部会長
	教務委員会 ICT活用教育部会	三浦	部会長
	教務委員会 国際コミュニケーション能力育成部会	伊藤	部会長
	教務委員会 特別支援教育推進室 (未規則化)	照井	
外部	いわて高等教育コンソーシアム(単位互換)	高橋	
	「高専学生情報統合システム」担当	三浦	

平成30年度 教務委員会業務担当一覧

	業務	担当	実施時期
1	授業変更(オリエンテーション・合宿研修・工場見学旅行)	伊藤	4・10・11月
2	学年集会の実施(2年・3年)	高橋	4月
3	再評価・再履修対象学生の指導	高橋・主事	4月
4	特別区域清掃の計画立案・実施状況確認	高橋	4月(掌握)
5	インターンシップの統括(実習依頼, 事前指導)	伊藤, 照井	4月～
6	中間試験・期末試験の時間割作成	伊藤	4月～
7	FD研修会(運営委員会で企画)	主事, 高橋	4月
8	TA制度の企画・実施	伊藤	4月
9	広報物(学校案内・学校要覧・ホームページ)の改定	三浦	4月
10	中学校訪問の内容検討	三浦	4月
11	学校説明会(学校PR)の内容検討	三浦	4月
12	TOEIC-IP試験の実施(英語科と連携)	伊藤	準備4・9・1月
13	非常勤講師の再評価試験の実施	高橋	5月上旬
14	消防・避難訓練の実施計画	主事, 三浦	5月
15	情報機器による緊急連絡方法の学生周知・安否確認訓練	三浦	5月
16	系配属志望調査・系配属作業	照井, 伊藤	通年
17	一日体験入学・高専祭(学校PR)の内容検討	三浦	5月
18	放送大学の履修案内	高橋	5月・11月
19	教務システムの改善(教務係長と連携)	三浦	5月
20	合宿研修・工場見学旅行の統括	伊藤	5月
21	授業改善(授業公開等の企画)	高橋	5月
22	出席不良者および成績不振学生の掌握と指導	伊藤	6・10・12月
23	地域企業見学会(2年)の実施	照井	7月企画・10月実施
24	校内実力試験の設定・実施	伊藤	8月
25	編入学・推薦選抜・学力選抜試験(実施要項・説明会・統括副責任者)	高橋	8月・1月・2月
26	キャリア教育講演会(1～3年)の企画・実施	照井	9月
27	知財教育講演会の企画・実施	照井	9月
28	4年次編入学関係(普通高校出身者の対応, 事前指導の掌握)	高橋	9月
29	非常勤講師との意見交換会	伊藤	9月・2月
30	専門教科と一般教科の意見交換	高橋	10月
31	行事予定表・ガイダンス計画の作成	伊藤	10月
32	授業アンケート(点検評価委員会が担当するが, 自由記述を担当)	主事	10月・2月
33	大学説明会の統括(豊橋技科大, 長岡技科大, 他)	高橋	11～12月
34	シラバス・科目系統図の統括	三浦	12月
35	シラバス・科目系統図の作成・点検	全員	12月
36	教務関係規則の見直し・管理	伊藤	12月
37	授業時間割編成	照井→三浦	1月・7月
38	教務便覧の改定	伊藤	1月
39	学級担任の手引きの改定	伊藤	1月
40	学生便覧の改定	伊藤	1月
41	新入生オリエンテーションの企画・実施	照井, 三浦, 伊藤	1月→4月
42	入試結果の分析・分析結果の蓄積・選抜方法の改定	主事	1～3月
43	盛岡検査場の統括責任者・統括副責任者	照井, 三浦	2月
44	1年生入学者アンケート調査・データ蓄積	照井→伊藤	2月→4月
45	2年生オリエンテーションの企画・実施	高橋→伊藤	2月→4月
46	進級・卒業判定資料のチェック・会議での説明	伊藤, 主事	3月
47	進級・卒業判定資料のチェック	伊藤, 主事	3月
48	学年末の学業表彰リストアップ・学生表彰のチェック	伊藤, 主事	3月
49	旧1年担任と新2年担任の情報交換会	高橋	3月
50	担任の業務を支援する電子ファイル(名票, 座席表, 掲示物)の管理	三浦	3月
51	第1学年クラス編成作業(原級留置学生の配置に関する内容含む)	三浦, 伊藤	3月
52	当該年度の事業報告・改善内容整理	全員	3月
53	主事不在時の代行	照井	
54	モデルコアカリキュラム対応・カリキュラム改定の検討	三浦, 伊藤	
55	アクティブラーニングの推進	伊藤・三浦	
56	CBT(学習到達度試験等)への対応	高橋	
57	単位未修得者の掌握	高橋	掌握
58	教室の清掃指導・教室の破損状況把握	高橋	掌握
59	情報リテラシー・基礎製図・ものづくり実験実習の統括	三浦	
60	系導入セミナー担当者との連携(系配属関係)	照井	
61	COOP教育関連科目の統括(実施状況の把握, 計画)	照井	
62	外部評価(運営諮問会議, JABEE, 機関別認証評価)への対応	高橋	
63	教務主事補引き継ぎ記録の作成	全員	

平成 30 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：教務委員会(専攻科関係)

報告者(役職・氏名) 専攻科長・中山 淳

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務※2
委員	中山 淳 (専攻科長)	
〃	中嶋 剛 (生産工学専攻長)	教務委員会国際コミュニケーション能力育成部会 点検評価委員会評価対応部会 進路指導室
〃	岡本 健 (物質化学工学専攻長)	教務委員会国際コミュニケーション能力育成部会 点検評価委員会評価対応部会
- ※1	小野 孝文 (生産工学副専攻長)	
- ※1	小林 健一 (生産工学副専攻長)	特別研究発表会実施および特別研究論文集製本等に係る業務
委員	中山 美喜也 (学生課長)	

※1：生産工学副専攻長は教務委員会構成員ではない

※2：専攻長・副専攻長としての担当業務のみ

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

(1) 教育課程に係る検討

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

(1) 教育課程に係る検討

平成 29 年度より大分高専が世話役となり遠隔授業を行ってきた農学概論について、平成 31 年度より専攻科の正規の開講科目として開講することとした。それにともない、学則の一部改正(教育課程の改正)を行った。また、特例適用専攻科の科目表の変更届出も行った。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

特になし

2.4 前年度からの改善(変更)項目(前述の改善の進言への対応以外)

特になし

2.5 来年度の年度計画

(1) 教育課程に係る検討

平成30年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：教務委員会 実践教育部会

報告者（役職・氏名） 教務主事補・照井 教文

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
部会長	照井 教文	統括（教務主事補）
	鈴木 明宏	（「実践創造技術」「地域創造学」担当）
	滝渡 幸治	（「実践工学」担当）

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

(1) 実践教育の推進

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

「実践教育の推進」について、今後の状況に合わせた各科目の実施方法および内容について検討することができた。そのうち「地域創造学」および「実践工学」については実際に検討内容を次年度の内容に反映することができた。

モデルコアカリキュラムへの対応については、今後、教務委員会で検討していく。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

【提言】

- ・ COOP 教育と卒研などのリンク、相互乗り入れなど柔軟な運用方法について検討をお願いしたい。
- ・ 年2回の開催であるが、開催回数および部会のあり方が適正であるか検討をお願いしたい。

【対応】

- ・ 現在、実践教育と卒研などの連携は、各教員に一任している。希望する教員の研究に対しては連携が促進するように、今後とも対応を検討していく。
- ・ 部会のあり方について検討した結果、今年度で実践教育部会は廃止することとなった。今後は、教務委員会で該当する内容を検討する。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

特になし

2.5 来年度の年度計画

来年度より、本部会は廃止となるため、年度計画はない。実践教育に関する内容は、教務委員会で検討していく予定である。

平成30年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：教務委員会 知財教育部会

報告者（役職・氏名） 部会長・照井 教文

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
部会長	照井 教文	統括（教務主事補）
	貝原 巳樹雄	（「知的財産」担当、COC実行委員会）
	平林 一隆	（COC実行委員会）
	津田 大樹	
	谷川 享行	

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 知的財産に関する教育の推進

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

「知的財産に関する教育の推進」について、これまでと同様の授業内容および講演会を実施することができた。さらにパテントコンテストにおいて、昨年度に続いて学生が受賞するという大きな成果を示すことができた（5. その他 参照）。このことから、これまでの本校の知財教育が十分に効果的なものであったと考える。

モデルコアカリキュラムへの対応については、今後、教務委員会で検討していく。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

【提言】

- ・ パテントコンテストへの積極的な応募とその結果の受賞は評価できる。
- ・ モデルコアカリキュラムへの対応を進めて欲しい。
- ・ 卒研や特別研究にも生かせる実践的、効率的な知財教育の運用の可能性について検討をお願いしたい。
- ・ 年 2 回の開催であるが、開催回数および部会のあり方が適正であるか検討をお願いしたい。

【対応】

- ・ パテントコンテストの成果は主に、COC実行委員会の貢献が大きい。今後も必要に応じて連携していく。
- ・ モデルコアカリキュラムにおける知財教育は、「工学基礎」の分野であり、専門領域とは異なり全体でも評価方法が定まっていない。完成年度である 2021 年度に向けて、引き続き検討していく。
- ・ 現在、知財教育と卒研・特別研究の連携は、各教員に一任している。希望する教員の研究に対しては連携が促進するように、今後とも対応を検討していく。

- ・ 部会のあり方について検討した結果、今年度で知財教育部会は廃止することとなった。今後は、教務委員会で該当する内容を検討する。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

特になし

2.5 来年度の年度計画

来年度より、本部会は廃止となるため、年度計画はない。知財教育に関する内容は、教務委員会で検討していく予定である。

平成 30 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：教務委員会 ICT 活用教育部会

報告者（役職・氏名） 准教授・三浦弘樹

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
部会長	三浦 弘樹	統括
委員	小保方幸次	
委員	千田 栄幸	

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

(1) ICT を活用した教育の推進

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

(1) ICT を活用した教育の推進

→ 今後の ICT を活用する上でのユーザー管理等に関して協議した。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

【進言】

- ・本校では主に Moodle が用いられているのに対し、高専機構本部では Blackboard を推進しているという問題があるが、その問題を解決して ICT の活用が広がるように推進して欲しい。
- ・年 2 回の開催であるが、開催回数および部会のあり方が適正であるか検討をお願いしたい。

【対応】

Moodle を主として、Office365, および一部で Blackboard を利用し、授業および参考資料, 課題および提出, 小テスト, 定期試験, アンケートなど多岐にわたり活用され, 年々広がりを見せている。Moodle に関しては今後の学校の運用方針に沿って進めていく。

なお, 平成 31 年度の総合情報センターの設置に伴い, 組織改編を検討している。

2.4 前年度からの改善(変更)項目(前述の改善の進言への対応以外)

なし

2.5 来年度の年度計画

(1) ICT を活用した教育の推進

平成 30 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：教務委員会国際コミュニケーション能力育成部会

報告者（役職・氏名） 准教授・伊藤 一也

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
部会長	伊藤 一也	統括
委員	下川 理英	(英語主任)
〃	岡本 健	(副国際交流室長)
〃	千葉 圭	(副国際交流室長)
〃	中嶋 剛	(生産工学専攻長)
〃	岡本 健	(物質化学工学専攻長)

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 国際コミュニケーション能力の育成に係る検討

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1) 国際コミュニケーション能力の育成に係る検討

英語科におけるこれまでの取り組みについて取りまとめた他、英語科と専門教員で国際コミュニケーション能力の育成の方策について意見交換を行った。

特に、今年度は TOEIC を中心とする施策について議論を行い、英語科から提案があった TOEIC ポートフォリオの内容について部会として内容を精査して教務委員会へ諮った。

部会自体の評価すべき点は、TOEIC ポートフォリオを中心に、本校の英語教育の現状について具体的に審議したことである。継続課題として、昨年度に引き続き 5 年生の TOEIC-IP 試験の欠席者が未だに多い事が挙げられるが、そのための施策として、今年度の当部会で審議した TOEIC ポートフォリオの適用が挙げられる。なお、特別研究発表会における完全な英語発表が減少している事への施策については、指導教員の負担が大幅に増える懸念もあるため、継続審議が必要と考える。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

【進言】

- TOEIC L&R とコミュニケーション能力の方向性は必ずしも一致しない。コミュニケーション能力育成に結びつけるならば、リスニングセッションのスコア解析などを実施した方がよい。
- 専攻科修了要件から「TOEIC 400 点以上」が外されて数年が経ち、現在の専攻科生の英語力および英語力向上のためのモチベーションが低下することを懸念する。引き続き学生の英語能

力向上のための方策を検討してほしい。

3. TOEIC-IP 試験の欠席者を減らす工夫を検討してもらいたい。
4. 学生の英語を使うことへの抵抗感を減らす試みについて検討をお願いしたい。
5. 年1回の開催であるが、開催回数および部会のあり方が適正であるか検討をお願いしたい。

【対応】

1. TOEIC L&R のスコア解析については、問題が非公開であること等から、詳細なスコア解析は難しいのが実情である。一方、各学年の英語科目で TOEIC L&R を意識したポートフォリオの実践を英語科と共に検討しており、教務委員会で審議を継続する。
2. 英語科と共に検討中のポートフォリオの中で、TOEIC スコアの伸び代に基づく評価を英語科目に反映させることを検討中である。
3. TOEIC-IP 試験の欠席者を減らすために、2. と同様に TOEIC スコアの伸び代に基づく評価を英語科目に反映させることを検討中である。
4. 国際交流サークルの活動を継続していくことで、留学生や英語に触れる機会を増やし、より積極的に参加する学生を増やしていく。
5. 今年度の国際コミュニケーション能力育成部会は、2 回にわたり英語教育の具体的な対応策や、英語科からの TOEIC ポートフォリオの提案内容について審議を実施した。今後も、授業アンケート結果を確認した上で英語能力の向上方策について継続審議することを部会の方針として合意している。本部会としては、部会の開催回数の問題ではなく、具体的に何を検討しどう実行していくか、という中身を充実させる必要があると考えており、今年度は適正なあり方であったと認識している。

2.4 前年度からの改善(変更)項目(前述の改善の進言への対応以外)

英語能力の向上を阻む項目として、下記の意見を取りまとめた。

- ・ 本校では聴いたり読んだりするインプット型の授業が多く、話したり表現したりというアウトプット型の授業が少ないと感じる。
- ・ 授業の内容・質の問題なのか、それとも授業時間数の問題なのか判然としない。
- ・ 英語教育について考える際、授業だけで英語能力向上を図るということはそもそも難しく、授業時間外での個人努力が必要。
- ・ 学生自身の英語能力向上にかかるモチベーションが低い印象がある。授業アンケートの結果とフィードバックで方策を工夫できないか。
- ・ 英語能力向上について、例えば国際交流委員会関係で海外を経験した学生からの影響などにより、以前に比べ英語についてモチベーションを高く持つ学生はここ数年増えてきている。その上で、効果的な対応策について論議し、英語科からの TOEIC ポートフォリオの提案を審議、教務委員会に諮ることができた。

2.5 来年度の年度計画

- (1) 国際コミュニケーション能力の育成に係る検討

平成30年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：学生委員会

報告者（役職・氏名） 学生主事・白井仁人

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
学生主事	白井仁人	学生指導全般 企画調整 いじめ防止委員会 対外的行事全般（学外委員、外部対応）奨学金・経済支援 市学警連・生徒指導連絡協議会 部活動顧問調整 東北地区高専体育大会（分散開催） 顧問削減案作成 高専機構対応・東北地区学生主事関係 文化的行事 後援会費調整 高専祭（指導補佐） 預り金関係（指導補佐）
学生主事補 （筆頭）	原 圭祐	高専祭指導 評価対応部会学生安否確認訓練 保健管理センター運営委員会 保健室連携 IT 関係・保健指導 いじめ防止委員会 東北地区高専体育大会（教職員学生割振案） インターネット関連学生指導（第一次対応・窓口）
学生主事補	高野 淳司	部活動指導（高体連・合宿指導他） いじめ防止委員会 技術系コンテスト支援部会 預り金関係（説明会設定等） 交通安全指導・放置自転車撤去計画 校外関係学生指導（苦情、自転車）（第一次対応・窓口）
学生主事補	中川 裕子	学生会指導 学生表彰関係 全校屋外清掃 校内体育大会 いじめ防止委員会 生活指導計画 広報委員会 校内関係学生指導（教員通報、自転車、 ドアなど）（第一次対応・窓口）
学生委員	佐藤 陽悦	一関市少年センターの巡回（前期）
学生委員	藤田 実樹	一関市少年センターの巡回（後期）
学生課長	中山美喜也	学生委員会関係事務
学生支援係長	高橋 寛子	学生委員会議事録

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

(1) 学生会行事

部活動紹介・見学、立会演説会、学生総会、壮行会、大会報告会、学生会リーダー研修会、
「朔風」編集発行

(2) 課外活動関係

合宿の調整・指導、課外活動記録、課外活動の安全と指導の手引き改訂、顧問調整、各種大

会参加

- (3) 技術系支援部会関係
公募準備・選考、部会招集、ロボット作成指導補助
- (4) 学生安否確認訓練
- (5) 実行委員会指導
校内体育大会実行委員会、高専祭実行委員会
- (6) 健康・IT・文化的行事関係
飲酒・喫煙・薬物乱用の防止と指導、性教育に関する啓蒙指導、IT 利用に関する被害防止とマナーの遵守指導、救急救命講習会
- (7) 生活指導全般
挨拶運動・登校指導、校内外巡回指導、交通安全に関する指導、女子学生への生活指導、学生指導の手引
- (8) 問題行動発生時の対応
事情聴取・処分内容の検討など全員で対応
- (9) 外部機関との連携
一関市少年センターの市内巡回への協力、一関市学校警察連絡協議会・生徒指導連絡協議会、岩手県高等学校体育連盟県南支部関係、高文連一関支部、萩荘地区青少年健全育成協議会

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1) 学生会行事
部活動紹介・見学：4月6日に実施した。
立会演説会：4月20日に実施した。
学生総会：4月20日に実施した。1月22日に実施予定だった学生総会は、参加人数が定数に達しなかったため、報告・連絡事項のみとした。
壮行会：6月28日に実施した。
大会報告会：7月5日に実施した。
全校集会：9月25日に実施した。そのほか、臨時全校集会を12月7日に実施した。
学生会リーダー研修会：12月18日に実施した。
「朔風」編集発行：12月～3月にかけて実施した。
○ 達成度：90%
○ 自己評価内容：ほぼ問題なく実施することができた。学生総会については、学生会との協力で学生の参加について検討する必要がある。
- (2) 課外活動関係
合宿の調整・指導：夏季休業前及び春季休業前に実施した。
課外活動記録：通年で行った。
課外活動の安全と指導の手引き改訂：3月に実施した。
顧問調整：3月に実施した。
各種大会参加：高体連・東北地区高専体育大会・全国高専体育大会等、通年で実施した。
○ 達成度：100%
○ 自己評価内容：問題なく実施することができた。

(3) 技術系支援部会関係

公募準備・選考：5、6月に実施した。

応募チーム数：ロボコン2、
プロコン3（競技部門2、課題部門1）

部会招集：6月に実施した。

ロボット作成指導補助：5月～10月にかけて実施した。

○ 達成度：100%

○ 自己評価内容：問題なく実施することができた。

(4) 学生安否確認訓練

学生安否確認訓練：6月に実施した。

○ 達成度：100%

○ 自己評価内容：問題なく実施することができた。

(5) 実行委員会指導

校内体育大会実行委員会：5月10、11日に校内体育大会を実施した。

高専祭実行委員会：11月2～5日に高専祭を実施した。

○ 達成度：80%

○ 自己評価内容：両大会ともに実施することができた。ただ、高専祭当日に小火が発生するという問題が発生したため、達成度を80%とした。

(6) 健康・IT・文化的行事関係

飲酒・喫煙・薬物乱用の防止と指導

・健康教室：11月14日実施 対象者：1年生全員

・薬物乱用防止講演会：10月31日実施 対象者：2年生全員

性教育に関する啓蒙指導

・「いのちと性」に関する講演会：10月24日実施 対象者：1年生全員

IT利用に関する被害防止とマナーの遵守指導

・スマホ・ケータイ安全教室：6月27日実施 対象者：1年生全員

・サイバー犯罪被害防止教室：7月11日実施 対象者：2年生全員

・インターネット被害防止教室：7月18日実施 対象者：3年生全員

救急救命講習会

・救急救命講習会の計画立案および実施：7月3日実施

○ 達成度：100%

○ 自己評価内容：問題なく実施することができた。

(7) 生活指導全般

挨拶運動・登校指導：4月から10月の第1週に専攻科棟脇通用口と正門で挨拶の声かけ

校内外巡回指導：通年で毎週2～3回、昼休み時間と放課後に校内外の巡回指導

交通安全に関する指導

・交通安全教室 第1学年全員：5月9日実施

・交通安全教室 第2学年全員：5月16日実施

・交通安全教室 第3学年全員：5月23日実施

・ステッカー貼付指導・駐輪マナーの徹底：適宜、指導を行った。

- ・構内自動車無許可乗入れ車への指導： 適宜、指導を行った。

女子学生への生活指導

- ・女子学生対象の集会： 4月実施

学生指導の手引

- ・学生指導の手引の改訂： 3月実施

○ 達成度：90%

- 自己評価内容： 問題なく実施することができた。ただ、学生から教員への挨拶、教員から学生への挨拶をもっと活発化させられるかもしれない。その分を差し引いて、達成度を90%とした。

(8) 問題行動発生時の対応

事情聴取・処分内容の検討など全員で対応： 随時、全員で対応した。

○ 達成度：100%

- 自己評価内容：問題なく実施することができた。

(9) 外部機関との連携

- ・一関市少年センターの市内巡回への協力： 通年で学生委員が参加・協力した。
- ・一関市学校警察連絡協議会・生徒指導連絡協議会： 通年で学生主事が参加した。
- ・岩手県高等学校体育連盟県南支部関係： 課外活動担当の学生主事補が参加した。
- ・高文連一関支部

H30年度は一関市で、第42回岩手県高等学校総合文化祭総合開会式が開催され、本校教員1名が実行委員を担当した。

- ・萩荘地区青少年健全育成協議会：通年で学生主事が参加した。

○ 達成度：70%

- 自己評価内容：だいたい実施できたが、一関市学校警察連絡協議会・生徒指導連絡協議会の出席回数が昨年度よりかなり少なかった。校内の会議と重なり、出席できなかったためだが、すべて出席できなかったので達成度を70%とした。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

- (1) 進言：課外活動支援員の弾力的な運用や課外活動指導の外部委託の可能性について検討をお願いしたい。⇒対応：今年度より新しく課外活動指導員を導入した。
- (2) 課外活動の指導で、「学生が主体的に活動する場面を設定した」とある。今後もそのような取り組みを推進して欲しい。⇒対応：引き続き推進する。
- (3) 代表顧問から研究に意欲的な若手教員を外すことの可能性について検討をお願いしたい。⇒対応：顧問配置は競技経験、役職負担、個々の事情など勘案せねばならないことがらが非常に多くその中で決めていくので非常に難しい問題だが、今後もできる範囲で検討したい。
- (4) 進言：教員が関与して行っていた行事などで、学生単独の活動に切り替えていける部分があるか検討して欲しい。⇒対応：検討したが学生単独というのは難しい面が多い。
- (5) 進言：業務が広範囲に及んでいるが、業務削減に向けて、業務の棚卸し、優先順位の明確化について検討してほしい。⇒対応：学生アパート訪問業務の削減や校内巡回回数の削減などこれまで

さまざまな業務削減を行ってきた。現時点では現状が必要最小限と考えているが、削減可能なものが見つかれば今後検討していきたい。

- (6) 進言：最近、低学年の学生の挨拶が少ないように思われる。挨拶が盛んになるように、これからはたらきかけてほしい。⇒対応：学生集会で呼びかけるなど、挨拶を推進した。
- (7) 進言：盗難や SNS に関する指導は今後も続けて欲しい。⇒対応：実施したが、今後も続ける予定である。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

- (1) 学生支援体制の再整備計画書を高専機構に提出し、課外活動支援員用の予算を獲得した。
- (2) 部活動顧問数削減について学生会と話し合った。

2.5 来年度の年度計画

- (1) 学生会行事
 - 部活動紹介・見学、立会演説会、学生総会、壮行会、大会報告会、学生会リーダー研修会、「朔風」編集発行
- (2) 課外活動関係
 - 合宿の調整・指導、課外活動記録、課外活動の安全と指導の手引き改訂、顧問調整、各種大会参加
- (3) 技術系支援部会関係
 - 公募準備・選考、部会招集、ロボット作成指導補助
- (4) 学生安否確認訓練
- (5) 実行委員会指導
 - 校内体育大会実行委員会、高専祭実行委員会
- (6) 健康・IT・文化的行事関係
 - 飲酒・喫煙・薬物乱用の防止と指導、性教育に関する啓蒙指導、IT 利用に関する被害防止とマナーの遵守指導、救急救命講習会
- (7) 生活指導全般
 - 挨拶運動・登校指導、校内外巡回指導、交通安全に関する指導、女子学生への生活指導、学生指導の手引
- (8) 問題行動発生時の対応
 - 事情聴取・処分内容の検討など全員で対応
- (9) 部活動顧問負担軽減案の検討
- (10) 外部機関との連携
 - 一関市少年センターの市内巡回への協力、一関市学校警察連絡協議会・生徒指導連絡協議会、岩手県高等学校体育連盟県南支部関係、高文連一関支部、萩荘地区青少年健全育成協議会

平成30年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：学生委員会管轄 技術系コンテスト支援部会

報告者（役職・氏名） 部会長・高野 淳司

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
自然科学領域・准教授 学生主事補 (規則 第3条一号委員)	高野 淳司	部会長 企画調整・学生指導補助
機械・知能系・准教授 (規則 第3条二号委員)	伊藤 一也	学生指導補助
電気・電子系・助教 (規則 第3条二号委員)	奥村 賢直	学生指導補助
情報・ソフトウェア系・助教 (規則 第3条二号委員)	水津 俊介	学生指導補助
化学・バイオ系・助教 (規則 第3条二号委員)	本間 俊将	学生指導補助
人文社会領域・助教 (規則 第3条二号委員)	山野内 敬	学生指導補助

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) プロコン出場チームの募集及び選考
- (2) ロボコン出場チームの募集及び選考
- (3) プロコン連携シンポジウムの案内および校内での開催補助
- (4) コンテスト学校代表チームの支援依頼に応じて、学生指導補助

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1) 計画通り、トラブルや遅滞なく、部会・選考会の開催できた。
- (2) 例年よりさらに支援依頼回数は少なく、今年度は1回のみであった（昨年度2回）。
- (3) 各種コンテストの選考におけるプレゼンテーションが試験等と日程が重なってしまうケースがあり、学生の負担が大きいとの意見があったことから、顧問と日程調整を密に行い可能な限り負担を減らす日程での実施を試みた。
- (4) 高専連合会主催でないコンテストあつてかつ出場チーム数が決められているコンテストの扱いは、掲示板等で周知する方針としているが、このようなコンテストの場合、通知から応募締切までの期間が極端に短い場合があり、事実上、学内選考会の開催は困難である。従って、稀なケースではあると思うが、こういった小規模コンテストにおいて選考が必要になった場合は、選考会を行わず、応募希望者間での調整を引き続き依頼したい。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

平成 29 年度、点検評価委員会より「学生指導補助は年間 2 回のみで、コンテストの学内公募・選考が主たる業務となっているが、部会のあり方について検討して欲しい」の進言があった。

技術系コンテスト支援部会のあり方については、以前から学生主事と学生主事補の間でこれで良いか検討課題となっていた。今年度も検討したが、依頼する技術系部活動側の希望などもあり、なかなか難しい問題となっている。今後も引き続き、より良いあり方を模索していく予定である。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

これまで各種コンテストの学内プレゼンテーションに提出される資料が多く、応募側の負担が大きいかとの意見があった。以上の点を勘案し、学内プレゼンテーションに使用される資料は、大会事務局に提出する資料の一部をもって認めるものとした。

2.5 来年度の年度計画

- (1) プロコン出場チームの募集及び選考
- (2) ロボコン出場チームの募集及び選考
- (3) プロコン連携シンポジウムの案内および校内での開催補助
- (4) コンテスト学校代表チームの支援依頼に応じて、学生指導補助
- (5) 各種コンテストの案内

平成 30 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：寮務委員会

報告者 寮務主事・二本柳譲治

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
寮務主事	二本柳譲治	委員長
寮務主事補	佐藤 智治	各種行事の指導割当，中央委員会・評議会指導（主），留学生・チューター指導（主），寮生派遣の交渉・引率（副），部屋割指導・表作成（副），「ACCESS plus」編集指導，国際交流委員会
〃	渡邊 崇	主事・主事補・委員の宿直・巡回割当，在室調査・朝点呼立会割当，指導寮生会指導（主），入寮選考資料作成（主），中央委員会・評議会指導（副），「寮生活の手引き」編集（副），保健管理センター運営委員会
〃	谷川 享行	寮生派遣の交渉・引率（主），部屋割指導・表作成（主），「寮生活の手引き」編集（主），留学生・チューター指導（副），指導寮生会指導（副），入寮選考資料作成（副），夏季特別在寮期間中の風呂・掃除当番の割振，広報室
寮務委員	八戸 俊貴	系・学科連絡担当，寮行事への参加，昼巡回（試験期間・体育大会・高専祭等）
〃	奥村 賢直	〃
学生課長	中山美喜也	寮運営費収支報告書，寮生保護者会費収支報告書作成および次年度予算案作成等
寮務係長	及川 尚	書記

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 平日日中における寮内安全管理体制の構築
- (2) 寮内ネットワーク環境の整備
- (3) 「寮生活の手引」の改訂

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

(1) 平日日中における寮内安全管理体制の構築

平日日中における寮生の安全管理・所在確認の方策を検討し、平成 31 年度から通常授業日には、登校時刻より寮内の各棟を施錠し居室の点検を行うこととした。

(2) 寮内ネットワーク環境の整備

寮内ネットワークの整備について、昨年度より引き続き有線方式・無線方式を含め具体的な整備計画を検討した結果、予算規模の制約により有線方式は一旦断念し、既存の Wi-Fi ルーター等を活用することで共用スペースでの利用が可能となるよう整備を進めることとした。

(3) 「寮生活の手引」の改訂

内容の再検討を行い、現状の運用との整合性が取れていない部分の整理と表記上の曖昧な点を改訂し、新年度の「手引」作成に反映させた。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

電気使用量の増加防止・日課違反と寮内盗難防止・交換寮生に関しては、前年度からの対応を継続しつつ、新たな仕組みづくりの中でより効果的な方策を試みている。業務削減については、次項に記載されている対応のほか、平成 31 年 3 月に出された高専機構本部の「高専における寮業務に関する総合的な方針」への対応を通じて全体的に取り組んでいく。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

寮生の指導業務に当たる教員の配置を検討し、必要最小限の人員を必要な時間帯に配当することにより業務の削減・効率化を進めた。

2.5 来年度の年度計画

(1) 寮業務に関する総合的な方針の検討

(2) 寮内安全管理体制の構築（継続）

(3) 寮内ネットワーク環境の整備（継続）

平成 30 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：施設設備委員会

報告者（施設設備委員会委員長・千葉悦弥）

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏 名	担当業務
委員長	千葉 悦弥 校長補佐（総務担当）	
委員	明石 尚之 副校長（教務担当）	
〃	白井 仁人 副校長（学生担当）	
〃	二本柳譲治 副校長（寮務担当）	
〃	戸谷 一英 副校長（研究・地域連携）	
〃	中山 淳 校長補佐（専攻科担当）	
〃	千葉 圭 メディアセンター長	
〃	平林 一隆 保健管理センター長	
〃	高野 淳司 一般教科（人文社会系）	体育施設
〃	後藤 勉 事務部長	
総務課		会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1)概算要求（案）、営繕事業（案）の作成と検討
- (2)キャンパスマスタープラン（案）の作成と検討
障害を持つ学生のための施設設備の追加もマスタープランに追加する方向で検討を行う。
- (3)設備整備マスタープラン（案）の作成と検討
新規・更新設備の学内順位決定の評価項目の見直しと、設備維持費に関する検討を行う。
- (4)施設設備に関する計画案、設置案についての検討
施設利用状況調査を実施するとともに、学科改組に伴う教員室等の配置方針を検討する。

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1)概算要求（案）、営繕事業（案）を作成した。
- (2)キャンパスマスタープラン（案）については、保健室移転も含めて検討したが、メディアセンター改修が確定したため修正案を作成するまでには至らなかった。
障害者バリアフリー対応については追加予算により、建物出入り口のスロープと手すり工事の追加等を実施した。
- (3)設備整備マスタープラン（案）を作成した。
新規・更新設備の学内順位決定の評価項目の検討を行った。次年度には各学科、各系の順位1位の申請については次年度より優先度を重視したい。

(4) 施設設備に関する計画(案)、設置(案)についての検討

施設利用状況調査を実施した。学科改組に伴う教員室等の配置方針について今年度は結果を出せず次年度に検討を継続したい。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

- ・保健室へ階段でしか行き来できないのは障害および疾病を抱える学生には不便なので移転を検討して欲しい。

営繕事業として保健室の管理棟への移転案を検討し申請予定であったが、メディアセンター改修工事の予算が確定したことから、2020年度の営繕事業として申請することとなった。

2.4 前年度からの改善(変更)項目(前述の改善の進言への対応以外)

新規・更新設備の学内順位決定の評価項目を検討した。次年度には各学科、各系の順位1位の申請については次年度より優先度を重視したい。

2.5 来年度の年度計画

- (1) 概算要求(案)、営繕事業(案)の作成と検討
- (2) キャンパスマスタープラン(案)の作成と検討
- (3) 設備整備マスタープラン(案)の作成と検討
- (4) 施設設備に関する計画案、設置案についての検討

平成 30 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：安全衛生委員会

報告者 安全衛生委員会委員長・千葉 悦弥

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏 名	担当業務
委員長	千葉 悦弥 校長補佐 (総務担当)	
委員	須田 志優 (叶城倫子) 岩手県立磐井病院	産業医
〃	大嶋 江利子 教員	衛生管理者(有資格者)
〃	山口 恭一 総務課長	防火・防災管理者
〃	柴田 勝久 教員	環境管理責任者
〃	後藤 勉 事務部長	
〃	鈴木 明宏 機械工学科長	
〃	秋田 敏宏 電気情報工学科長	
〃	柴田 勝久 制御情報工学科長	
〃	二階堂 満 物質化学工学科長	
〃	津田 大樹 一般教科長 (人文社会系)	
〃	松尾 幸二 一般教科長 (自然科学系)	
〃	小岩 俊彦 技術長	
〃	平野 悦子 看護師	
〃		
総務課	高橋 説夫 (総務) 佐藤 亮二 (財務)	会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1)校内安全巡視、法定点検等、環境改善目標達成への進捗状況の報告 (毎月)
- (2)定期健康診断、ストレスチェック、インフルエンザ予防接種の実施
- (3)消防避難訓練の実施

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

年度計画の実施状況

- (1)計画通り実施された。
- (2)計画通り実施された。
- (3) 消防避難訓練は6月雨天で延期し、10月15日に実施された。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

- ・ヒヤリ・ハット報告の仕組みを学校全体に周知し、有効活用の依頼

教員会議において周知を行ったが、今年度は報告件数は0件であった。

- ・環境改善目標の調査報告だけでなく、省エネへの実効的な方策の検討の依頼
継続して検討中である。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

- ・平成29年12月から引き続き、校内安全巡視の指摘事項が改善されない場合管理者または使用者と所属長へ改善依頼書を配布し改善を促している。また、転倒防止のための作業については費用を確保できる場合、随時対応することとしている。

2.5 来年度の年度計画

- (1)校内安全巡視、法定点検等、環境改善目標達成への進捗状況の報告（毎月）
- (2)定期健康診断、ストレスチェック、インフルエンザ予防接種の実施
- (3)消防避難訓練の実施

平成 30 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：ハラスメント防止対策室

報告者 ハラスメント防止対策室 室長・千葉 悦弥

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏 名	担当業務
室長	千葉 悦弥 校長補佐 (総務担当)	
室員	平林 一隆 保険管理センター長	
〃	中川 裕子 女性教員	
〃	井上 翔 男性教員	
〃	高圓恵理子 女性職員	
〃	小岩 俊彦 男性職員	
カウンセラー	川原 詳子 カウンセラー	
カウンセラー	沖田 憲一 カウンセラー	
室員	山口 恭一 総務課長	
総務課		会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1)4 学年学生対象のハラスメント防止講演会の開催
- (2)教職員対象のハラスメント防止講演会の開催
- (3)上記講演会での参加者を増やす工夫を検討し、実行する。
- (4)悩み相談の受付窓口と対応フローの検討

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

年度計画の実施状況

(1)4 学年学生対象のハラスメント防止講演会の開催

日時：平成 31 年 1 月 30 日 14:45～15:45 会場：第一講義室

講師：カウンセラー 濱中ミオ氏 (仙台高専広瀬キャンパス相談室)

- ・参加学生 102 名で、平成 29 年度 65 名より参加学生数は増加した。
- ・対策室構成教員による寸劇もあり、関心を持たせる工夫のある講演会であった。

(2)教職員対象のハラスメント防止講演会の開催

日時：平成 30 年 8 月 1 日 15:00～16:30 会場：第一講義室

講師：藤田美代子氏 (株式会社インソース)

- ・今年度は講師による講演に加え、厚労省のパワハラに関する動画ページの視聴も実施し、

職場におけるハラスメント具体例を理解できるよう工夫した。

- ・参加者 77 名で平成 29 年度参加者 48 名より増加し、平成 27 年度並みの参加数になった。

(3) 上記講演会での参加者を増やす工夫を検討し、実行する。

- ・4 学年学生対象の講演会では、保健管理センター長と連携し 4 学年担任からの全員参加の周知を行った結果、全員ではないが参加学生は増加した。
- ・教職員対象の講演会では FD 研修会として実施したが、まだ業務により参加できない教職員もおり、開催時期を検討して参加者増加をはかりたい

(4) 悩み相談の受付窓口と対応フローの検討

- ・学生向けの対応フローは平成 30 年度検討されているが、まだ結果は出ていない。現状は最終的に学生主事と保健管理センター長へ集約されている。また教職員向け窓口は現状総務課長となっている。

委員会等活動全体の点検・評価内容

- ・4 学年学生対象と教職員対象のハラスメント防止講演会では、受講者数は増加しているが、今後も全員参加のための周知徹底と、開催時期設定を検討する必要がある。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

- ・ハラスメントの相談窓口の明確化と周知について
2.2 (4) の通り、まだ明確化されておらず、検討中である。
- ・4 学年学生へのハラスメント講習会の参加者について
平成 30 年度は 102 名と増加したが、さらに全員参加を目標にしたい。
- ・ハラスメント防止対策後援会の参加者向上について
今後も周知を行い、教職員については業務負担の比較的少ない時期に実施したい。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

- ・教職員向け講演会において、厚労省のパワハラに関する動画ページ「明るい職場の応援団」の動画視聴を追加した。

2.5 来年度の年度計画

- ・4 学年学生対象のハラスメント防止講演会の開催
- ・教職員対象のハラスメント防止講演会の開催
- ・上記の講演会での参加者を増やす工夫を検討し、実行する。

平成 30 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：広報室

報告者 広報室 室長・千葉 悦弥

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏 名	担当業務
委員長	千葉 悦弥 校長補佐(総務担当)	
委員	三浦 弘樹 教務主事補	学校案内 ホットライン
〃	中川 裕子 学生主事補	
〃	谷川 享行 寮務主事補	テレビ番組撮影
〃	貝原 巳樹雄 総務担当補佐	
〃	秋田 敏宏 副テクノセンター長	公式サイト、外部リンク
〃	山口 恭一 総務課長	
〃	中山 美喜也 学生課長	
〃	小岩 俊彦 技術長	
〃		
総務課		会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1)公式サイトからの外部リンク申請体制を整備する。
- (2)学校要覧、学校案内、ホットライン、TV 番組作成を行う。
- (3)本校紹介 TV 番組の継続について検討する。

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1)セキュリティ対策も含んだ外部リンク申請規則を作成し、周知した。
- (2)学校要覧、学校案内、TV 番組作成は実施したが、ホットラインは平成 30 年度内には作成せず、次年度中学校訪問の時に配布することとなった。
- (3)TV 番組については新入生アンケート結果から広報室としては取り止めの希望を提案したが企画会議において次年度も継続することとなった。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

- ・学生に対する連絡体制について検討依頼
教務主事や関係部署と検討中である。
- ・ホットラインの広報効果についての検討依頼
新入生を対象に各広報メディアについてアンケート調査を 6 月 1 日に実施した。
その結果ホットラインは取り止めても構わないとの委員会案を企画会議に提案したが、

広報効果を上げるため、中学校訪問時に中学校へ持参し手渡しすることとなった。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

- ・年度更新時期の公式サイト内構成員等のデータ更新について、総務係から関係部署へ呼びかけを行い速やかに更新できるようにした。

2.5 来年度の年度計画

- (1) 学校要覧、学校案内、ホットライン、TV 番組作成を行う。
- (2) ホットラインは中学校訪問に間に合うよう作成する。
- (3) 広報室の構成員変更、業務内容追加により役割分担等の変更を行う。

平成 30 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：進路指導室

報告者 進路指導室 室長・千葉 悦弥

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏 名	担当業務
室長	千葉 悦弥 校長補佐 (総務担当)	
室員	貝原 巳樹雄 総務担当補佐	SPI 試験、ES 研修等
〃	鈴木 明宏 機械工学科長	ガイダンス、研修等
〃	秋田 敏弘 電気情報工学科長	ガイダンス、研修等
〃	柴田 勝久 制御情報工学科長	ガイダンス、研修等
〃	二階堂 満 物質化学工学科長	ガイダンス、研修等
〃	中嶋 剛 生産工学専攻長	ガイダンス、研修等
〃	土屋 高志 4年機械工学科担任	ガイダンス、研修等
〃	谷林 慧 4年電気情報工学科担任	ガイダンス、研修等
〃	小野 宣明 4年制御情報工学科担任	ガイダンス、研修等
〃	木村 寛恵 4年物質化学工学科担任	ガイダンス、研修等
〃	中山 美喜也 学生課長	ガイダンス、研修等
学生課		会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1)前期進路ガイダンス、後期進路(就職・進学)ガイダンスの実施
- (2)各種講座の開催(インターンシップ、SPI、ES)
- (3)地域企業ガイダンスの参加連絡と集計
- (4)先輩の話を聴く会の実施
- (5)合同会社説明会の参加募集とりまとめ
- (6)全国高専共通利用型進路支援システム導入の検討

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1)計画通り実施された。
 - ・前期進路ガイダンス 4学年対象 6月16日(クラスごとに実施)
 - ・後期進路(就職・進学)ガイダンス(4年、専攻科1年対象)10月26日
就職・進学の概要説明(ガイドブック配布)、手続き等について説明

(2)計画通り実施されたが、エントリーシート講座の参加者が減少、SPI 模擬試験の参加者も激減した。連絡周知は例年通り実施しているが進学希望者の未受験等があり、対策検討を行う必要がある。

- ・ インターンシップマナー講座 7月17日 (メディア総研) 本科 151名 専攻科 7名
- ・ SPI 模擬試験(筆記、学研アソシエ)1月10日 1000円 5名 (H29 28名、H28 42名)
- ・ SPI 模擬試験(Web、学研アソシエ)3回(1月~)2000円 20名 (H29 77名、H28 34名)
- ・ 第1回エントリーシート書き方講座(自己分析編)12月10日 130名 (H29 160名)
- ・ 第2回エントリーシート書き方講座(実践編)1月15日 110名 (H29 160名)

(3)地域企業ガイダンスの参加連絡と集計

進学希望者も含め全員参加を原則としており、平成30年度は専攻科本科含めて参加者は198名中136名であった。(平成29年度は196名中143名)

昼休み時間帯に保護者用の見学時間を設けたが、校内案内に不備があり保護者の来場者は昨年を下回った。次年度は誤解のない案内が必要である。

(4)計画通り実施された。

4年クラスごとに就職1名、進学1名の5年生による講話を実施した。

(5)合同会社説明会の参加募集とりまとめ

4件のセミナー参加を呼び掛けたが、申込みは学生がWEBから実施しており参加人数は把握していない。

(6)全国高専共通利用型進路支援システム導入の検討

平成30年度は試用期間であったが、次年度から有料となり導入可能かの判断と検討を行う。

平成30年度の就職状況について

平成30年度本科の就職の割合は64%となり増加した。平成29年度55%、平成28年度は50%

・平成30年度進路状況

本科 146名 (就職64% 進学34%)

就職94名 (M32名 E24名 S15名 C23名)

進学50名 (M10名 E12名 S16名 C12名)

その他2名

専攻科 31名 (就職74% 進学26%)

就職23名 (AP19名 AC4名)

進学8名 (AP4名 AC4名)

岩手県内企業への就職者数と割合

本科 19名/94名 (20%) 専攻科 4名/23名 (17%)

宮城県内企業への就職者数と割合

本科 7名/94名 (7%) 専攻科 3名/23名 (13%)

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

- ・地域企業ガイダンスに進学希望者の学生の参加を促して欲しい。
進学希望者も含めた全員参加を原則としており、平成 30 年度は専攻科本科含めて参加者は 198 名中 136 名であった。今後も周知を徹底したい。

- ・進路指導の取組に対する学生の満足度およびニーズ継続審議をして欲しい。
現状では卒業直前でのアンケート調査等が考えられるので継続して実施検討したい。

- ・卒業生の地元定着を促進するために、学生が就職先やインターンシップ先を選ぶ際の判断基準等の情報を地元企業に提供し、企業側と学生のニーズが合うよう地元企業に働きかけて欲しい。
平成 30 年度一関高専教育研究振興会への進路状況報告の場で、学生ニーズの傾向と、地元企業と県外企業の初任給比較結果の情報を提供した。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

- ・全国高専共通利用型進路支援システムについて
本システムは企業からの求人票を電子化し Web 上で閲覧できるシステムで、学生支援系の業務軽減や学生の学外からの閲覧等が可能である。本校は本システムの試用期間中であるが、次年度から実費を負担し本格導入にむけて検討を行う。

2.5 来年度の年度計画

- (1)進路ガイダンス、就職進学ガイダンスの実施
- (2)各種講座の開催(インターンシップ、SPI、ES)
- (3)地域企業ガイダンスの早期（夏季休業明け）の参加呼びかけと人数集計
- (4)先輩の話を聴く会の実施
- (5)合同会社説明会の参加募集ととりまとめ
- (6)全国高専共通利用型進路支援システム導入の検討

平成 30 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：地域共同テクノセンター委員会

報告者（役職・氏名） 地域共同テクノセンター委員会委員長・戸谷一英

1 構成員および主な担当業務（一覧）

役職等	氏名	担当業務
委員長	戸谷 一英	委員会業務の掌握
委員（副センター長・部門長）	若嶋振一郎	地方創生部門
委員（副センター長・部門長）	滝渡 幸治	研究推進部門
委員（副センター長・部門長）	秋田 敏宏	人材育成部門
委員（副部門長）	二階堂 満	地方創生部門
委員（副部門長）	井上 翔	研究推進部門
委員（副部門長）	八木 麻実子	人材育成部門
委員	佐藤 昭規	産学官連携コーディネータ
委員	後藤 勉	事務部門
総務課	千葉 正義	会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) テクノセンター運営委員会をテクノセンター委員会と改称し、運営委員を 3 名減らし 12 名から 9 名体制（センター長 1 名、副センター長 3 名、副部門長 3 名、CD1 名、事務部長）にし、実働部隊とする。
- (2) 岩手県と協力して厚生労働省の地域創生人材育成事業（EV 講座開催と地元企業共同研究の両輪。H30 年から 3 年。委託費 109.461 千円）を立ち上げる。①連携する工業高校や産業技術短大向けに「EV ミニアカデミー」を実施する。②企業技術者・高専生・求職者向けに「EV アカデミー」を実施する。③高度企業技術者等向けに「R&D アカデミー」を開催する。
- (3) EV 人材育成事業を JICA・ODA の普及・実証事業に申請する。
- (4) 科研費勉強会を複数回実施する。科研費の申請率 90%以上を目指し、そのための環境を整える。
- (5) 競争的資金の獲得を目指し、JST や高専機構 KRA の個人面談会や公募説明会を開催する。財団系公募への積極的な申請を促す。
- (6) 一関市の支援を受け企業技術者・管理者向けの公開講座（一関市委託ものづくり産業振興事業：品質工学、MOT、原価管理、3D CAD）を実施する。
- (7) JST 等より依頼された招待講演や、「いわて半導体関連産業集積促進協議会」、東北工学教育協会主催の「産学交流の日」などで地域創生のために積極的な招待講演を行う。
- (8) 全国レベルの産官学連携催事（イノベーションジャパン、メッセナゴヤ 2018 など）や学会・

国際会議に参加する。

- (9) 地域貢献の一環として「いわてサイエンスシンポジウム」、「おおさき産業フェア 2017」、「リエゾン-I マッチングフェア」、「産学官金連携フェア 2019 みやぎ」、「一関市企業情報交換会」などへ出展する。
- (10) JST のジュニアドクター育成塾への申請に関する調査を行う。
- (11) 鶴岡高専の K-ARC, 東京高専の社会実装教育において高専間連携や共同研究を推進する。

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1) テクノセンター運営委員会をテクノセンター委員会と改称し、運営委員を 3 名減らし 12 名から 9 名体制（センター長 1 名、副センター長 3 名、副部門長 3 名、CD1 名、事務部長）にした。
- (2) 岩手県と協力して厚生労働省の地域創生人材育成事業（EV 講座開催と地元企業共同研究の両輪。H30 年から 3 年。委託費 109.461 千円）を立ち上げた。①連携する工業高校や産業技術短大向けに「EV ミニアカデミー」を実施した。②企業技術者・高専生・求職者向けに「EV アカデミー」を実施した。③高度企業技術者等向けに「R&D アカデミー」を開催した。
- (3) EV 人材育成事業を JICA・ODA の普及・実証事業に申請した（不採択）。
- (4) 科研費勉強会を 3 回実施した。科研費の申請率は 86%であった。
- (5) 競争的資金の獲得を目指し、JST や高専機構 KRA の個人面談会や公募説明会を開催した。財団系公募への積極的な申請を促した。
- (6) 一関市の支援を受け企業技術者・管理者向けの公開講座（一関市委託ものづくり産業振興事業：品質工学, MOT, 原価管理, 3D CAD）を実施した。
- (7) JST 等より依頼された招待講演や、「いわて半導体関連産業集積促進協議会」、東北工学教育協会主催の「産学交流の日」などで地域創生のために積極的な講演や招待講演を実施した。
- (8) 全国レベルの産官学連携催事（メッセナゴヤ 2018 など）や学会・国際会議に参加した。
- (9) 地域貢献の一環として「いわてサイエンスシンポジウム」、「リエゾン-I マッチングフェア」、「一関市企業情報交換会」などへ出展した。
- (10) JST のジュニアドクター育成塾への申請に関する調査を行った（諸事情で申請は延期）。
- (11) 鶴岡高専の K-ARC, 東京高専の社会実装教育において高専間連携や共同研究を推進した。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

H29 年度改善の進言：

- (1) 公開講座や出前講座が積極的に開催されている。今後も引き続き開催して欲しい。
- (2) 研究資金獲得のための活動も活発に行われているので、実績に結びつくように引き続き活動願いたい。
- (3) 会議の回数は多いが終盤に偏っているが、活動する上で問題はないか。
- (4) 業務が広範囲に渡っており、業務量も非常に多い。業務削減に向けて、業務の棚卸し、優先順位の明確化について検討をお願いしたい。

改善の進言への対応：

- (1) 多数の公開講座や出前講座を開催した。2019 年度も同様に開催する予定である。
- (2) 研究資金獲得のための活動を積極的に行い、共同研究件数は過去最多で、外部資金獲得額は

V字回復した。

- (3) テクノセンター委員会は隔月開催（計7回）とし、偏りをなくした。適宜メール会議を交えて、必要なときに必要な審議を行った。厚生労働省の地域創生人材育成事業推進委員会（テクノセンター委員会メンバーは全員参加）を同時開催とした。
- (4) 年度末（3月）の委員会で業務削減に向けて業務の棚卸し、優先順位の明確化を行った。
- ・ 削除業務：一関市文化財関係支援、KCみやぎ見学会、家族ロボット教室@東北大他、サイエンスな日曜日～レゴロボットな日曜日～、厚生労働省地域創生人材育成事業・中間成果報告会、岩手県工業クラブ定時社員総会、他
 - ・ 優先業務：
 - ◇ テクノセンターは地域連携担当として広域な研究推進部門を切り離し、①地域イノベーション部門、②地域連携部門、③人材育成事業部門、に再編する（体制：1テクノセンター長、3副センター長、3委員、事務部長、1CD）。①は県内企業との共同研究や県内ファンズに積極的に申請し、地域内共同研究やイノベーションを推進する。②は公開講座、科学技術コミュニケーションを必要最小限に絞りつつ推進し、学生を関与させた地域連携に努める。③は厚生労働省地域創生人材育成事業を最優先としKPI（重要評価指標）を守るべく努力する。さらにJICA申請、山形大学との連携申請（文部科学省・持続的な産学共同人材育成システム構築事業）に注力する。
 - ◇ 従来の研究推進部門は、研究推進担当として独立。1研究担当校長補佐、1研究担当補佐。科研費申請査読システムの構築と申請、JST機能検証フェーズ申請、大型外部資金の申請（JST、NEDO、サポイン、総務省、農水省、環境省など）に注力する。高専間や高専機構研究推進本部との連携、知財創出に注力する。県南技研との連携協定構築に着手する。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

岩手県を事業主体とする社会人、大学生、求職者を対象とした厚生労働省の「地域創生人材育成事業」が採択となり、一関高専は「EV人材育成事業」の委託先として、平成30年度7月から事業を開始した。この中で、7月にキックオフミーティング、3月に成果報告会、マスコミにも多数取り上げられた。

2.5 来年度の年度計画

- (1) 岩手県と協力して厚生労働省の地域創生人材育成事業（EV人材育成コース）を継続する。
 - ①企業技術者・高専生・求職者向けに「EVアカデミー」を5月開催する。
 - ②連携する工業高校や産業技術短大向けに「EVミニアカデミー」を実施する。
 - ③高度企業技術者等向けに「R&Dアカデミー」を6月募集する。
- (2) 岩手県内の競争的資金の獲得を目指し積極的な申請を促す。
- (3) 一関市の支援を受け企業技術者・管理者向けの公開講座（一関市委託ものづくり産業振興事業：品質工学、MOT、原価管理、3DCAD）を実施する。
- (4) 全国レベルの産官学連携催事（メッセナゴヤ2018など）に参加する。
- (5) 地域貢献の一環として「いわてサイエンスシンポジウム」、「きたかみ・かねがさきテクノメ

ッセ」,「おおさき産業フェア 2019」,「リエゾン-I マッチングフェア」,「産学官金連携フェア 2020 みやぎ」,「一関市企業情報交換会」などへ出展する。

- (6) 県南技研との連携協定について、その方針（平成 31 年 3 月 14 日の運営員会で承認）を教職員に周知し、具体的な調査検討を行う。

平成 30 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：地域共同テクノセンター運営委員会知的財産部会

報告者（役職・氏名） 地域共同テクノセンター運営委員会知的財産部会長・戸谷一英

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
部会長	戸谷 一英（地域共同テクノセンター長）	部会業務の掌握
委員	明石 尚之（教務主事）	部会業務
〃	中山 淳（専攻科長）	部会業務
〃	若嶋振一郎(副地域共同テクノセンター長)	部会業務
〃	秋田 敏宏(副地域共同テクノセンター長)	部会業務
〃	滝渡 幸治(副地域共同テクノセンター長)	部会業務
〃	貝原巳樹雄	部会業務
〃	山口 恭一（総務課長）	部会業務
〃	中山美喜也（学生課長）	部会業務
総務課	千葉 正義	会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 知財部会の人員削減を検討する。
- (2) 高専機構本部の知財出願方針に沿った学内の基準を検討する。
- (3) 知財案件を迅速に処理するために、高専機構の原則「①承継は、知財が強い場合、共同出願とライセンス先が明確な場合に限ること、②共同出願の場合は出願費用は企業持ちが原則であること」を教員へメール等で周知する。
- (4) 知財部会における審議において「高専機構の原則」を意識した審議を行う。そのために高専機構知財コーディネータの活用を検討する。
- (5) 平成 30 年 7 月 10 日に特許料納付期限となる特許権の継続について審議する。
- (6) 平成 31 年 2 月 26 日に審査請求期限となる特許出願（公開特許公報）があることから、審査請求の可否について審議する。
- (7) 発明届及び出願審査請求について、企業との関係もあることから迅速に対応する。

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1) 知財部会の人員削減は未検討。
- (2) 高専機構本部の知財出願方針に沿った学内の基準は未検討。
- (3) 知財案件を迅速に処理するために、高専機構の原則「①承継は、知財が強い場合、共同出願とライセンス先が明確な場合に限ること、②共同出願の場合は出願費用は企業持ちが原則で

あること」を出願検討中の教員へ周知した。

- (4) 知財部会における審議において「高専機構の原則」を意識した審議を行った。高専機構知財コーディネータは未活用。
- (5) 平成 30 年度中に期限となる特許権 1 件について審議を行い、事業化する予定がないことから継続しないことを決定した。
- (6) 発明届は 0 件であり、学内に出願の必要性を周知した。
- (7) 出願審査請求は 1 件あり審議の結果、請求することとした。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

H29 年度改善の進言：

- (1) なし

改善の進言への対応：

- (1) なし

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

特になし

2.5 来年度の年度計画

- (1) 知財部会の人員削減を検討する。
- (2) 高専機構本部の知財出願方針に沿った学内の基準を検討する。
- (3) 知財案件を迅速に処理するために、高専機構の原則「①承継は、知財が強い場合、共同出願とライセンス先が明確な場合に限ること、②共同出願の場合は出願費用は企業持ちが原則であること」を全教員へ周知する。
- (4) 知財部会における審議において「高専機構の原則」を意識した審議を行う。そのために高専機構知財コーディネータの活用を検討する。

平成 30 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：

報告者（役職・氏名）男女共同参画推進委員会委員長・八戸 俊貴

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
委員長	八戸 俊貴	全般
委員	小林 健一	会議代理出席
〃	木村 寛恵	事業補助
〃	小松田 沙也加	事業補助
〃	加藤 卓也	委員会出席・意見提案
〃	菊池 真理子	委員会出席・意見提案
〃	後藤 勉	委員会出席・意見提案
〃	山口 恭一	委員会出席・意見提案
総務課	千葉 正義	事務補助、予算関連
〃	阿部 恵悦	事務補助、事業補助
〃	高圓 恵理子	事務補助、事業補助
〃	木下 智陽	事務補助

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1)サイエンスカフェの実施
- (2)男女共同参画研修会の実施
- (3)ワークライフバランスにアンケートの検討、実施

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

実施状況 詳細は4. 主な活動・行事参照

達成度・自己評価内容

(1) サイエンスカフェ

検討が遅れたことから、周知の期間が短かった。そのこともあり、参加者は若干少なめになった。しかしながらアンケート結果から満足度は高く、目的であった女性研究者への意識啓発、進路決定への参考については十分果たせた。

(2) 男女共同参画研修会の実施

予算の問題から2回実施した。1回目は実施時期の関係もあり、参加人数も多く好評であったが、2回目は参加人数が半減した。これは実施時期の問題（年度末）ということと、2回目であったことから興味関心を引くことができなかつたのではないかと考えた。また学生に関しては参加を呼び掛けたのみであり、特に出席などは取らなかつた。問題点はあったが学生への研修および意識付けとしては十分役割を果たせた。

(3) ワークライフバランスに関するアンケートの検討、実施

回答率は7割近くであり、比較的興味関心はあったように感じた。また自由記述としての具体的な意見が多かったことから、この問題に対する興味関心の高さがうかがえた。同時にこの問題は職員よりも教員側がより強いように見受けられた。これにより教職員に対しての意識付けとしては十分な効果があった。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

改善の進言が特になかったため、対応していない

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

特になし

2.5 来年度の年度計画

- (1) 中学生・保護者のための進路相談会の実施
- (2) サイエンスカフェの実施
- (3) ワークライフバランスに関する検討、実施
- (4) 男女共同参画研修会の実施
- (5) 2019年度病児・病後児及び休日保育支援実施要項の策定、周知
- (6) 女性研究者に対する支援員についての規則化、試行

平成 30 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：点検評価委員会

報告者（役職・氏名） 点検評価委員会委員長[代行]

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職など	氏名	担当業務
委員長	大嶋 江利子 (校長補佐(評価担当))	委員会業務の掌理
委員	明石 尚之 (副校長(教務担当))	委員会業務
〃	白井 仁人 (副校長(学生担当))	〃
〃	二本柳 譲二 (副校長(寮務担当))	〃
〃	戸谷 一英 (副校長(研究・地域連携担当))	〃
〃	中山 淳 (校長補佐(専攻科担当))	〃
〃	千葉 悦弥 (校長補佐(総務担当))	〃
〃	小松田 沙也加 (評価担当補佐)	委員長の補佐
〃	山口 恭一 (総務課長)	委員会業務
〃	中山 美喜也 (学生課長)	〃
総務課	阿部 恵悦 (企画・情報係長)	会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1)平成 29 年度自己点検評価報告書に基づく学内組織の活動の点検および評価
- (2)平成 30 年度自己評価書および選択的評価事項自己評価書の作成
- (3)運営諮問会議の実施
- (4)自己評価用資料の定常的な収集・保管方法に係る検討
- (5)授業アンケートの回答率の向上のための方策の検討

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1)平成 29 年度自己点検評価報告書に基づく学内組織の活動の点検および評価
本件に係り第 3 回から第 4 回点検評価委員会において審議を行い、第 7 回運営委員会において点検評価委員会規則第 3 条第 2 号に基づき学内組織に対して活動の改善の進言を行った。
- (2)平成 30 年度自己評価書および選択的評価事項自己評価書の作成
平成 31 年度に受審を予定している機関別認証評価に対応するため、提出用に近い自己評価書

を年度内に完成させる予定であったが、完成は次年度初めに繰り越すこととなった。選択的事項における研究の位置づけについて議論したが、成文化は次年度初めに繰り越すこととなった。

(3) 運営諮問会議の実施

点検評価規則第3条第2項に基づき12月3日(月)に平成30年度運営諮問会議を開催した。平成30年度は、「一関高専の特色ある教育活動について」及び「一関高専の国際交流について」の2つのテーマを諮問した。本校が特色としている2つのテーマについて忌憚のない意見交換が行われたと評価する。

(4) 自己評価用資料の定常的な収集・保管方法に係る検討

自己評価用資料の定常的な収集・保管方法に係る検討を行う予定であったが、確実に実施できる具体的な収集・保管方法を実施するまで至らなかった。

(5) 授業アンケートの回答率の向上のための方策の検討

対応策を検討したが、有効に機能させることができなかった。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

(1) 観点1-1-③の項目に関して、学外アンケートの回答率が低いように感じられるため、回答率向上に向けた対策の検討を開始する必要があるのではないか。

「回答」

過去の学外アンケートも残念ながら回答率が低い。直接働きかけることも難しい。アンケート送付数をより多くすることが一つの方法と考える。

(2) 本科卒業生や専攻科修了生に対するアンケート回答率が低い。共同研究や求人で来校した企業や、こちらから訪問する企業に本校OBがいる場合、アンケート用紙を渡して回答をお願いするなど、全学的な取り組みが必要かもしれない。

「回答」

(1)と同様、アンケート送付数をより多くする他、就職先に声がけすることが考えられる。

2.4 前年度からの改善(変更)項目(前述の改善の進言への対応以外)

なし。

2.5 来年度の年度計画

(1) 平成30年度自己点検評価報告書に基づく学内組織の活動の点検および評価

(2) 機関別認証評価の受審

(3) 運営諮問会議の実施

(4) 自己評価用資料の定常的な収集・保管方法に係る検討

(5) 授業アンケートの回答率の向上のための方策の検討

平成 30 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：点検評価委員会評価対応部会

報告者（役職・氏名） 評価対応部会部会長[代行]

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
部会長	大嶋 江利子 (校長補佐(評価担当))	部会業務の掌理
副部会長	小松田 沙也加 (評価担当補佐)	部会長の補佐
委員	中嶋 剛 (生産工学専攻長)	機関別認証評価に係る自己評価書の作成 授業アンケートの設定業務
〃	岡本 健 (物質化学工学専攻長)	〃
〃	貝原 巳樹雄 (総務担当補佐)	〃
〃	高橋 知邦 (教務主事補)	〃
〃	三浦 弘樹 (教務主事補)	〃
〃	原 圭祐 (学生主事補)	〃
〃	滝渡 幸治 (副地域共同テクノセン ター長)	〃
総務課・学生課	阿部恵悦(総務課企 画・情報係長)・鈴木 啓文(学生課教務係 主任)	会務、授業アンケート

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 機関別認証評価に係る平成 30 年度自己評価書の作成
- (2) 学内組織の平成 29 年度自己点検評価報告書の点検
- (3) 授業アンケート実施に関する業務

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1) 機関別認証評価に係る平成 30 年度自己評価書の作成

第 1 回評価対応部会にて、平成 31 年度に機関別認証評価を受審するための自己評価書を分

担して作成することを決定し、作業を進めた。年度内の完成を目指したが、一部の基準の完成が年度始めに繰り越すこととなった。

(2) 学内組織の平成 29 年度自己点検評価報告書の点検

平成 29 年度に作成した自己点検評価報告書の点検結果に基づいて、各部門に対して改善を求めていたが、中でも大きな課題として「3つの教育方針」の改正があった。未来創造工学科運営会議、入学試験委員会、教務委員会により、検討が進められ、平成 31 年度より「3つの教育方針」を改正することとなった。

(3) 授業アンケート実施に関する業務

平成 30 年度前期授業アンケート(平成 30 年 9 月 28 日(金)～10 月 12 日(金))および後期授業アンケート(平成 31 年 2 月 7 日(木)～3 月 8 日(金))を実施した。平成 29 年度の回答率(前期 74.9%、後期 75.6%)に対し、平成 30 年度の回答率(前期 58.7%、後期 63.4%)であった。昨年度と比較して回答率は下がった。回答率を上げるため、従来パソコンを利用している科目の担当者に、最終授業終了後に回答を促す協力を依頼していたが、今年度は他のアンケート調査と重なったことが回答率低下の主要因と考える。今後とも、点検評価委員会と連携して授業アンケートの回答率の向上を図る必要がある。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

評価対応部会の平成 29 年度年間活動報告書について、改善の進言はなかった。

2.4 前年度からの改善(変更)項目(前述の改善の進言への対応以外)

なし。

2.5 来年度の年度計画

- (1) 機関別認証評価受審に係る対応
- (2) 平成 30 年度自己点検評価報告書に関する業務
- (3) 授業アンケート実施に関する業務

平成30年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：図書館専門部会

報告者（役職・氏名） 図書館長 千葉 圭

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
委員長	千葉 圭	全体の統括
委員	鈴木 明宏	M科の取りまとめ
	豊田 計時	E科の取りまとめ
〃	河原田 至	S科の取りまとめ
〃	戸谷 一英	C科の取りまとめ
学生課長	中山 美喜也	企画・調整
図書係長	大山 稔哉	企画・調整・議事録作成
図書係	菊池 真理子	図書館業務全般

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 新入生オリエンテーション及び図書館ガイダンス(1年生対象)
- (2) 一日体験入学での説明
- (3) 図書館専門部会の開催
- (4) 研究紀要の編集・発行
- (5) 図書館だよりの発行
- (6) 読書感想文コンクールの実施
- (7) ブックハンティングの実施
- (8) 東北地区図書館連絡協議会出席 (仙台高専名取キャンパス)

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1) 新入生オリエンテーション及び図書館ガイダンス(1年生対象)
2週に渡り、2クラスずつ実施した。
- (2) 一日体験入学での説明
参加者に対して、図書館の概要を説明した。
- (3) 図書館専門部会の開催
6回実施した。
- (4) 研究紀要の編集・発行
第53号の編集と発行(電子版)を実施した。
- (5) 図書館だよりの発行
第75号の編集と配布を行った。
- (6) 読書感想文コンクールの実施

1年生を対象に、国語科協力のもと、実施した。

(7)ブックハンティングの実施

11名を引率して、ジュンク堂書店(盛岡)で実施した。

(8)東北地区図書館連絡協議会出席(仙台高専名取キャンパス)

図書館長が出席した。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

「図書の陳列棚への配置について、授業に関連した参考書等を学生が手に取りやすい場所に配置にするなどの工夫が求められる。」という進言をいただいたので、図書館内で配置を工夫するとともに、ポップアップなどで利用者の目に留まりやすいよう、改善を図った。

2.4 前年度からの改善(変更)項目(前述の改善の進言への対応以外)

研究・学習に直接関係ないと思われる雑誌の講読を廃止した。

2.5 来年度の年度計画

図書館改修に伴う再配置と業務の効率化を図る。

平成30年度自己点検評価報告書

保健管理センター運営委員会

報告者：保健管理センター長・平林一隆

1 構成員および主な担当業務（一覧）

役職等	氏名	担当業務
○センター長 総合科学支援員	平林 一隆	保健管理センターの業務の掌理 一般教科との連絡・調整、学生支援
○副センター長 教務主事補	照井 教文	保健管理センター長の補佐 教務委員会との連絡・調整
学校医	小野寺 威夫	健康診断、疾病の予防処置、健康相談・指導
学校歯科医	久保田 文吾 久保田 智雄	歯科検診、歯科衛生指導
学校精神科医	村上 公敏	自殺予防、心の健康相談・指導
学校薬剤師	田村 満博	定期環境検査、医薬品と薬物に関する指導
スクール カウンセラー	川原 詳子 沖田 憲一	学生相談
○学生主事補 機械工学科支援員	原 圭祐	学生委員会との連絡・調整 機械工学科との連絡・調整、学生支援
○寮務主事補 物質化学 工学科支援員	渡邊 崇	寮務委員会との連絡・調整 物質化学工学科との連絡・調整 学生支援
○制御情報 工学科支援員	小林 健一	制御情報工学科との連絡・調整 学生支援
○学生課長	中山 美喜也	学生課との業務連携
○学生支援係長	高橋 寛子	保健管理センター運営委員会の事務
○看護師	平野 悦子	学生看護、保健教育、インテーカー (養護教諭有資格者による学生指導)
非常勤看護師	及川 史賀子	学生看護
スクール ソーシャルワーカー	宮崎 雅吉	学生支援
事務補佐員	小野寺加奈子	保健管理センター全般の事務補佐

表中、○印の構成員は、「保健管理センター運営委員会」構成員を兼ねる。

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 4月5日 入学式：保健管理センター長の保護者向け説明
- (2) 4月6日 始業式、定期健康診断（追加：内科診察（2～4年生）4月別日）
- (3) 4月9日 新入生校内オリエンテーション：グループエンカウンター
- (4) 4月17日 2学年特別活動 「対人関係スキルアップ講座」
- (5) 6月13日 1～3学年特別活動 「メンタルヘルス講演会」
- (6) 6月19・26日 歯科検診（1～5年生）
- (7) 6月23日 保護者懇談会全体会：保健管理センター長説明
- (8) 7月 ハイパーQ U（1～3学年）、学校適応感尺度調査（4～5学年・専攻科）
→夏休み明けに担任へデータ配付、分析
- (9) 7月 学校薬剤師による定期環境検査（水質）
- (10) 8月30・31日 ハイパーQ Uの結果分析会（担任・川原カウンセラー、沖田カウンセラー）
- (11) 9月下旬～10月上旬 「こころと体の健康調査」
→結果を受け、要注意学生との個別面談
- (12) 10月25日 1学年特別活動 「いのちと性に関する講演会」
- (13) 10月31日 2学年特別活動 「薬物乱用防止講演会」＜学生委員会共催＞
- (14) 11月14日 1学年特別活動 「健康教室」＜学生委員会共催＞
- (15) 1月14日 4学年特別活動 「ハラスメント防止講演会」＜ハラスメント防止対策室主催＞
- (16) 1月 学校薬剤師による定期環境検査（照度、二酸化炭素濃度）
- (17) 2月 ハイパーQ Uの実施（2学年：2回目、4E：1回目）
→3月末に結果が届くため、5月結果分析会実施予定
- (18) 3月12日 F D研究会 「修学支援のあり方とそれを支える学校体制」
- (19) 3月 要支援学生の支援継続・引継ぎの対策、新入生との面談

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

○年度計画を含む

- (1) 4月5日 入学式（保健管理センター長の保護者向け説明）
・保護者向けに保健管理センターの説明をした。
- (2) 4月6日 始業式・定期健康診断（全学年）（追加：内科診察（2～4学年）4月別日）
・全学年を対象に定期健康診断を行った。
- (3) 4月9日 新入生校内オリエンテーション
・構成的グループエンカウンターを実施し、新入生同士の交流を図った。
- (4) 4月 保健調書（2～5学年、専攻科）
・全クラスの保健調書を回収し、健康管理等の情報を整備した。
- (5) 4月17日 2学年特別活動「対人関係スキルアップ講座」
～構成的(グループ)エンカウンター、実技を通しての交流と仲間づくり～
講師：富士大学 根田真江先生
・構成的グループエンカウンターを実施して、新クラスの交流を図った。
- (6) 6月13日 1～3学年特別活動「メンタルヘルス講演会」

講師：仙台高専 濱中ミオ先生

- ・メンタルヘルスについての理解を深め、注意喚起をした。
- (7) 6月19・26日 歯科検診（1～5学年）
 - ・歯科検診を実施した。
- (8) 6月23日 保護者懇談会（保健管理センター長の話）
 - ・保護者向けに保健管理センターの説明と、学生の心身の健康について講話した。
- (9) 6月28～30日 第4回全国高等教育障害学生支援協議会：高専大会の為不参加
- (10) 7月 ハイパーQ Uの実施（1～3学年）・学校適応感尺度調査（4～5学年・専攻科）
 - ・1学年から3学年を対象にハイパーQ Uを、4学年から5学年・専攻科を対象に学校適応感尺度調査を実施した。
- (11) 7月9日 学校薬剤師による定期環境検査（水質）
 - ・水質検査を実施した。
- (12) 8月30・31日 要支援学生等の情報交換会（全学年担任、三主事、系長・学科長、保健管理センター運営委員、川原カウンセラー、沖田カウンセラー）
 - ・ハイパーQ Uや学校適応感尺度調査の結果等を、カウンセラーに解析・説明してもらい、その他の情報と併せて、担任および必要な関係者と情報共有をし、要支援学生等への効果的な対応について話し合った。
- (13) 9月6～7日 平成30年度心の問題と成長支援ワークショップ：

化学・バイオ系 滝渡教員が参加

 - ・研修に参加し、学生支援実務力の向上を図った。
- (14) 9月13～14日 第15回全国国立高専学生支援担当教職員研修：校長・平林参加
 - ・研修に参加し、学生支援実務力の向上を図った。
- (15) 10～11月 ころと体の健康調査（自殺予防）
 - ・高専機構本部からの要請で、全学年に実施した。
- (16) 10月25日 1学年特別活動「いのちと性に関する講演会」
 - ・生命の大切さなどについて、学生の意識向上を促した。
- (17) 10月31日 2学年特別活動「薬物乱用防止講演会」（学生委員会共催）

講師：学校薬剤師 田村満博先生

 - ・薬物乱用の危険性を理解させて、被害に陥らないよう注意喚起した。
- (18) 11月14日 1学年特別活動「健康教室」（学生委員会共催）
 - ・生活習慣病などを理解させ、普段からの健康維持についての関心を高めた。
- (19) 11月29～30日 第14回東北地区高専学生相談連絡協議会：平林・照井・平野参加
 - ・東北地区高専学生相談室関係者での情報交換を実施した。
- (20) 12月5日 平成30年度障害学生支援専門テーマ別セミナー【発達障害就労支援】：平林参加
 - ・研修に参加し、学生支援実務力の向上を図った。
- (21) 1月14日 4学年特別活動「ハラスメント防止講演会」（ハラスメント防止対策室主催）
 - ・ハラスメントについての理解を深めて、ハラスメントの加害者、被害者にならないように注意喚起をした。
- (22) 1月21日 学校薬剤師による定期環境検査（照度、二酸化炭素濃度）
 - ・教室の照度、二酸化炭素濃度の検査を実施した。

(23)2月 ハイパーQ Uの実施(2学年:2回目、4E:1回目)

- ・2学年全系および4学年電気情報工学科を対象に、ハイパーQ Uを実施した。

(24)3月12日 FD研修会「修学支援のあり方とそれを支える学校体制」

講師:宇部高専 内堀晃彦先生・日高良和先生

- ・修学支援についての講演を聴講して、学生を支える学校体制について教職員の関心を高めた。

(25)3月 要支援学生の支援継続・引継ぎの対策、新入生との面談

- ・次年度新入生のうち支援要望のある学生・保護者と事前面談を行った。

- ・年度当初に計画した行事は、全て実施した。
- ・計画した行事以外にも、状況に応じて必要な対応や追加行事を実施した。
- ・要支援学生に対する支援に関しては、約3割の学生について支援チームにより支援を行った。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

昨年度の点検評価委員会からの改善の進言は、特になかったので、対応はない。

2.4 前年度からの改善(変更)項目(前述の改善の進言への対応以外)

- ・新入生オリエンテーションで、構成的グループエンカウンターを実施し、新入生が円滑な仲間づくりをして高専生活に慣れるよう支援をした。
- ・昨年度までのハイパーQ U説明会を、ハイパーQ U及び学校適応感尺度調査の結果だけでなく日常の学生相談、学生支援の状況も含めた、支援のための意見交換会に拡大した。参加者も担任だけではなく、主事、系長、学科長も含めて広く支援が必要な学生の状況を理解する場とした。2名のスクールカウンセラーにも参加いただき、相談室情報も必要に応じて共有した。
- ・精神科医の相談日を、新たに年2回設定した。専門医の受診につなげられていない学生の相談に充てたり、教員が支援学生の状況について意見を聞く場として利用した。
- ・学生指導支援体制再整備予算により、スクールソーシャルワーカー1名を採用し、要支援学生の指導・支援を行った。
- ・学生指導支援体制再整備予算により、非常勤看護師1名を採用し、常勤看護師のインターカーとしての機能を強化した。
- ・チームによる学生支援を推進するため「一関工業高等専門学校修学支援室規則」を制定した。これにより次年度から正式に支援チームを発足させ支援にあたる。
- ・チーム支援を開始するにあたって、他高専の事例を学ぶFD研修会を実施した。
- ・「健康教室」の内容を拡大し、「がん教育」を取り入れ、学生の疾病予防に関する意識の啓発を図った。
- ・校内(学寮内を含む)の全自動販売機における、高カフェイン飲料の販売停止を学校に要請した。その結果全校的に販売停止となり、学生のカフェイン過剰摂取による健康被害を防止した。
- ・「保健管理センターだより」を発行して、学生向けの行事で実施したアンケート結果を伝え、本校学生の健康意識などを考える題材としてフィードバックした。最終号を成績資料

と同封して保護者に郵送した。

2.5 来年度の年度計画

- (1) 4月4日 入学式
- (2) 4月5日 始業式・定期健康診断（全学年）
- (3) 4月8～9日 新入生校内オリエンテーション(グループエンカウンター)(教務委員会主催)
- (4) 4月16日 2学年特別活動「対人関係スキルアップ講座」
- (5) 4月 保健調書（2～5学年、専攻科）
- (6) 4月 追加：内科診察（2～4学年）
- (7) 5月 ハイパーQUの結果分析会（昨年度2回目分）
- (8) 6月18・25日 歯科検診（1～5学年）
- (9) 6月19日 2学年特別活動「薬物乱用防止講演会」（学生委員会共催）
- (10) 6月29日 保護者懇談会全体会：保健管理センター長説明
- (11) 6月 全国高等教育障害学生支援協議会
- (12) 7月 ハイパーQU（1～3学年）・学校適応感尺度調査（4～5学年・専攻科）の実施
- (13) 7月 学校薬剤師による環境検査（水質検査）
- (14) 8月 平成31年度障害学生支援実務者育成研修会
- (15) 9月 全国国立高専学生支援担当教職員研修
- (16) 9月 ハイパーQUの結果分析会（担任、カウンセラー）
- (17) 10～11月 高専機構本部依頼「こころと体の健康調査」実施
- (18) 10月9日 1学年特別活動「いのちと性に関する講演会」
- (19) 10月23日 1～3学年特別活動「メンタルヘルス講演会」
- (20) 10月26日 保護者懇談会講演会
- (21) 11月 第15回東北地区学生相談連絡協議会
- (22) 11月13日 1学年ガイダンス「健康教室」（学生委員会共催）
- (23) 1月23日 4学年「ハラスメント防止講演会」（ハラスメント防止委員会主催）
- (24) 1月 学校薬剤師による環境検査（教室の二酸化炭素濃度、照度の検査）
- (25) 3月 要支援学生の支援継続・引継ぎの対策
- (26) 3月 次年度新入生要支援希望学生・保護者面談

平成30年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：いじめ防止委員会

報告者（役職・氏名） いじめ防止委員長・白井仁人

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
委員長：副校長・学生主事（第4条第1号）	白井仁人	委員長 企画調整
副委員長：保健管理センター長（第4条第2号）	平林一隆	副委員長 企画調整 アンケート実施
委員：学生主事補（第4条第3号）	原 圭祐	委員会メンバー
委員：学生主事補（第4条第3号）	高野淳司	委員会メンバー
委員：学生主事補（第4条第3号）	中川裕子	委員会メンバー
委員：学生課長（第3条第4号）	中山美喜也	委員会メンバー
委員：看護師（第4条第5号）	平野悦子	委員会メンバー

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) いじめ防止委員会の実施
- (2) いじめアンケートの実施
- (3) いじめ案件への対応

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1) いじめ防止委員会の実施
いじめ防止委員会を年3回開くことができた。
- (2) いじめアンケートの実施
今年度もいじめアンケートを実施することができた。これは、保健調査などの4種類のアンケート調査とは別に行ったものである。
- (3) いじめ案件への対応
いじめ防止委員会が中心となって、いじめ案件に対応した。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

改善の進言： いじめ対応のフローを策定し、いじめ相談の窓口を明確化し、HP 等にいじめ相談窓口を明記することを検討して欲しい。

進言への対応： 対応フローの作成、及び、窓口明確化について保健管理センターと検討中である。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

いじめアンケート内容を改訂し、より広範囲にいじめ案件を調査することができた。具体的には、インターネット書き込みに関わる案件まで広くアンケート調査をした。

2.5 来年度の年度計画

- (1) いじめ防止委員会の実施（年数回）
- (2) いじめアンケートの実施（7月頃）
- (3) いじめ案件への対応（随時、発覚時）

平成 30 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：技術室

報告者（役職・氏名） 技術室長・二階堂 満

1 構成員および主な担当業務

所属	役職・職名	氏名
	技術室長	二階堂 満
	技術長	小岩 俊彦
	副技術長	高嶋 あつ也
生産・加工班	班長（技術専門職員）	高橋 龍也
	班員（技術職員）	田口 恭輔
	班員（技術職員）	加納 源
電気・情報班	班長（技術専門職員）	佐藤 昌也
	班員（技術専門職員）	和田 史明
	班員（技術専門職員）	山本 美幸
	班員（技術専門職員）	横田 礼
分析・化学班	班長（技術専門職員）	佐々木 亨
	班員（技術専門職員）	宇野 修子

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

技術室は、教育研究に係る技術支援業務を組織的かつ効率的に行うとともに、技術的支援に必要な能力、資質等の向上を図り、教育・研究活動の進展に資することを目的としております。

(1) 学生実験の支援業務の高度化

- 各学科における実験実習の補助として、技術的な指導および安全教育などを行っているが、適切な指導ができるように、技術職員のスキルの向上を目指す。

(2) 各種設備の維持管理

- 本校に備わっている各種設備の維持管理を適切に行う。主に、各種工作機械や分析機器及び実験設備等の維持管理、廃水処理施設管理、電算室サーバー管理等を適切に行う。

(3) 研究支援業務の推進

- 教員の研究及び卒業研究において、技術的支援（装置製作・加工及び依頼分析等）を行う。

(4) 地域連携業務の推進

- 地域貢献の一環として小中学生向けの出前講座や公開講座を補助する。また、社会人を対象とした人材育成事業において講師を務める。

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

(1) 学生実験の支援業務の高度化について

- ・これまで技術職員1名で支援していた学生実験を複数の職員で支援できる体制を整えており、応用物理実験や機械工学実験では2名の職員が支援できるようになった。

(2) 各種設備の維持管理について

- ・工作機器や実験設備、電算室サーバー等の管理について実験や実習に支障をきたさないよう定期的にメンテナンス等を行った。

(3) 研究支援業務の推進について

- ・教員の研究支援や卒業研究からの技術的支援（装置製作・加工及び分析）を行った。

(4) 地域連携業務の推進について

- ・本校で開催された公開講座（親子リサイクル教室）で技術職員1名がアシスタントを務めた。
- ・公益財団法人岩手県南技術センター主催の人材育成事業で地域企業の方を対象とした機械加工系の講座で5名の技術職員が講師を務めた。講座の詳細は下記のとおりである

① フライス盤・旋盤加工技術講座

② 技能検定 機械加工（普通旋盤・フライス盤・NC旋盤・NCフライス盤）資格取得支援講座

以上、全体として計画に沿った活動であったが、育休職員分の代替え要員も現状では採用できていないことから育休職員が担当していた分の学生実験支援を他の技術職員でカバーしている。今後もこのようなことが想定されることから、技術職員相互のスキル向上を図り、複数名で相互の技術を共有することで、複数の技術職員で各種の学生実験を担当できるように体制を整えていく必要があると考える。

2.3 前年度からの改善（変更）項目

特になし

2.4 来年度の年度計画

- ・ 学生の実験及び実習の技術的支援
- ・ 学生の卒業研究等の技術的支援
- ・ 学生の課外活動の技術的支援
- ・ 工作機器・実験設備等の維持管理
- ・ 情報システム基盤の維持管理
- ・ 教員の教育研究活動に伴う技術的支援
- ・ 地域連携活動に伴う支援
- ・ 技術の習得，継承及び研修
- ・ その他教育・研究の支援

平成 30 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：国際交流委員会

報告者（役職・氏名） 国際交流委員会 委員長・村上 明

1 構成員および主な担当業務（一覧）

役職等	氏名	担当業務
委員長	村上 明	全体の取りまとめ
副委員長	岡本 健	シンガポール研修、トビタテ応募支援
副委員長	千葉 圭	留学生受入れ、危機管理
教務主事補	伊藤 一也	オンライン英会話
寮務主事補	佐藤 智治	寮での留学生指導、ニュージーランド研修
留学生指導	下川 理英	学校での留学生指導、トビタテ応募支援
委員	谷川 享行	留学生指導
委員	木村 寛恵	留学生指導
総務課長	山口 恭一	会務
学生課長	中山 美喜也	会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

国際交流に関する諸行事および活動に対して、特に以下の項目に重点を置いて取り組む。

- (1) 委員会内での役割分担の明確化と、それによる業務の効率化
- (2) 平成 30 年度に本校において新たに始めるシンガポール研修における安全かつ確実なプログラムの実施
- (3) 海外に派遣する学生の安全確保
- (4) トビタテ！留学 JAPAN への応募支援

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

(1) 委員長、副委員長 2 名、留学生指導教員、教務委員会選出委員、寮務委員会選出委員など、教員による委員の他に、総務課と学生課の職員の支援も受けて活動を行った。先に示した表のように、各委員の担当業務を明確にし、各委員が割り当てられた業務に責任をもって取り組んだ。留学生の対応では、留学生指導教員が中心的役割を果たし、寮務委員会選出の国際交流委員や、留学生のクラス担任、チューターと連携して、組織的かつ効率的に行うことができた。以上のことから、計画が達成できたと判断する。

(2) 平成 28 年度まで行っていたイギリス研修が現地の情勢によって平成 29 年度に中止になったことから、平成 30 年度より比較的情勢が安定しているシンガポールでの海外研修を開始した。本科生 8 名が参加して、語学学校に滞在し、午前中は現地の講師のもと英語学習に取り組んだ。午後は、チャイナタウンやリトルインディアなどを訪問し、世界中の様々な文化に触れた。また、

現地企業の見学なども行い、参加学生の満足度が高い研修となった。事前オリエンテーションにおいて安全教育に時間をかけて取り組んだこともあり、無事に研修を行うことができたので、計画が達成できたと判断する。

(3) 本校の学生が海外に渡航する際に、外務省の旅レジへの登録や海外旅行保険への加入などの指導を行った。また、学生および保護者の連絡先など、渡航時における最新の情報を把握して、必要に応じて迅速に対応できるよう、態勢を整えた。渡航前と海外滞在中には、国際交流委員会と危機管理室が中心となって、協定校などの海外派遣先と緊密に連携して派遣学生の安全に気を配った。海外滞在中、派遣学生には国際交流委員会に報告書（週報）を提出してもらい、それを通して現地での派遣学生の研究活動や生活の様子を国際交流委員が把握すると共に、安全で有意義な活動となるよう、必要に応じて随時アドバイスを送った。そのような取り組みの結果、海外に派遣した学生全員が安全に活動を行うことができたことから、計画が達成できたと判断する。

(4) 平成26年に始まった民間企業からの支援や寄附などによる官民協働の海外留学支援制度「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム～」の支援を受けて、平成30年度も本校の学生が海外に渡航した。平成30年度の派遣学生は、本科4年生1名で、本校の協定校であるタイ・バンコクにあるパトゥムワン工科大学において研究活動を行った。応募支援の一環として、トビタテ！留学 JAPAN の説明会や海外協定校に関する説明会を学内において独自に開催した。以上のことから、計画が達成できたと判断する。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

改善の進言①：学生の海外派遣が積極的に、かつ事故なく行われていることは評価できる。

→上記2.2(3)に記載のように、今年度も海外研修参加学生や海外派遣学生に対する安全教育に力を入れ、事故なく海外研修および派遣を行うことができた。

改善の進言②：海外情勢を的確に評価し、危険性がある場合は海外研修を取りやめるという決断ができたことは評価できる。

→海外の情勢に注視し、比較的情勢が安定していると判断したシンガポールでの海外研修を新たに開始した。また、外務省の海外安全情報（危険レベル）にも常に気を配り、安全な海外研修および派遣の実施を心掛けた。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

様々な分野で国際化が進む中で、海外での活動を希望する学生の数を増やすため、低学年での海外研修（引率教員付きで1～2週間程度）をステップに、高学年で海外インターンシップ（引率なしで1～3か月程度）にチャレンジする仕組みを整えた。それに伴い、海外インターンシップ先（協定校）の開拓やトビタテ！留学 JAPAN への申請にも力を入れ、フランス セルジー・ポントワーズのグランゼコール フランス工科大学院大学である ECAM-EPMI と交流協定を締結し、次年度から本校の学生の ECAM-EPMI への派遣と ECAM-EPMI の学生の本校への受入れを行うこととなった。このような取り組みの結果、平成30年度には海外に派遣した学生の数が14名（シンガポール8、フランス2、ニュージーランド2、タイ2）であったが、次年度に海外での活動を希望する学生の数が27名となり、大幅に増加した（シンガポール9、フランス6、ニュージーランド2、タイ9、オーストラリア1）。これまでは、学内において短期留学生と本校の学生が英

語で会話をする機会や、研究活動を行う機会は前期に限られていたが、ECAM-EPMI との協定の締結によって、次年度からは年間を通じてそのような機会が設けられることとなり、学内において学生がより一層世界を意識できる環境が整った。

2.5 来年度の年度計画

国際交流に関する諸行事および活動に対して、特に以下の項目に重点を置いて取り組む。

- 国際交流委員会と、留学生指導教員、クラス担任、教務委員会、寮務委員会、事務部が連携して、外国人留学生の学習・生活状況を的確に把握して、指導を行う。
- 海外渡航者に対して、旅レジへの登録や海外旅行保険への加入方法などの安全および危機管理に関する教育・指導を実施し、安全な海外研修および派遣を継続する。
- 海外協定校の国際交流担当者との連携により、海外渡航中の学生の活動状況を的確に把握して指導を行うとともに、プログラムの質の向上を図る。
- 学生の海外での活動の選択肢を増やすため、既に協定を締結しているヨーロッパや東南アジアの高等教育機関に加えて、東アジアの高等教育機関との新たな協定の締結を目指す。

平成 30 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：COC 実行委員会

報告者（役職・氏名） 委員長・明石尚之

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
委員長	明石 尚之	統括
委員	戸谷 一英	
〃	千葉 悦弥	
〃	八戸 俊貴	
〃	千葉 悦弥	
〃	貝原 巳樹雄	COC 推進部会 部会長
〃	山口 恭一	
〃	中山 美喜也	
総務課	阿部 恵悦	会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 「一関高専 地域創造フォーラム」の開催
- (2) 「地域企業見学会」の実施
- (3) 「仕事と暮らしのイメージ湧くわくプロジェクト」の実施
- (4) 「地域企業情報ガイダンス」におけるブースプレゼン動画のライブラリ化
- (5) 「パテコンサミット in 一関」の開催

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

(1) 「一関高専 地域創造フォーラム」の開催

日時：平成 30 年 6 月 21 日（金） 10:30～12:00

会場：第一講義室

対象：第 4 学年学生

内容：

パネルディスカッション テーマ “地域課題と高専生へ期待すること”

＜パネリストの所属＞(株)ツガワ（花巻市），イーエヌ大塚製薬(株)（花巻市），
 (株)ジャパンセミコンダクター(北上市)，森永乳業(株)盛岡工場(盛岡市)，
 一関ヒロセ電機(株)（一関市）

(2) 「地域企業見学会」の実施

期日：平成 30 年 10 月 15 日（木）機械・知能系，電気・電子系

平成 30 年 10 月 16 日（金）情報・ソフトウェア系，化学・バイオ系

対象：第2学年

概要：一関市内の企業を見学した。一日を利用して午前1社、午後1社を見学した。
2クラスずつ2日に分けて行った。

見学先：機械・知能系： 午前 (株) 登米村田製作所
午後 (株)アロン社 一関工場 or ニットーハイ(株) 東北事業所
電気・電子系： 午前 大昌電子(株) 岩手工場
午後 (株) 一関 LIXIL 製作所
情報・ソフトウェア系： 午前 ミヤマ東日本(株)
午後 (株) 岩手日日新聞社 or ニットーハイ(株) 東北事業所
化学・バイオ系： 午前 大昌電子(株) 岩手工場
午後 (株)佐原

(3) 仕事と暮らしのイメージ湧くわくプロジェクト

「地域創造学」において若手技術者インタビューを4学科で実施した。これは、平成28年度に物質化学工学科が先行して実施し、平成29年度に物質化学工学科と電気情報工学科の2学科が実施したものである。

<機械工学科> 7社

(株)アロン社, (株)エイアンドティー・江刺工場, サンドビックツーリングサプライジャパン(株), ジオマテック(株), (株)デジアイズ, (株)ミクニ盛岡事業所, (株)ユーテムプレジジョン東北工場

<電気情報工学科> 8社

アルプス電気(株)古川工場, インテグラン(株), SWS 東日本(株), 三光化成(株), (株)東邦テクノス, (株)やまびこ盛岡事業所, 谷村電気精機(株), アイシン・コムクルーズ(株)

<制御情報工学科> 7社

アルプスシステムインテグレーション(株), (株)一関LIXIL製作所, (株)エイアンドティー・江刺工場, 川嶋印刷(株), (株)佐原, (株)東邦テクノス, 日本端子(株)花泉工場

<物質化学工学科> 9社

一関ヒロセ電機(株)

千住スプリンクラー(株)岩手事業所, (株)フジキン東北工場, イーエヌ大塚製薬(株)花巻工場, 森永乳業(株)盛岡工場, (株)ケディカ, 塩野義製薬(株)金ヶ崎工場, アステラスファーマテック(株)西根工場, (株)ジャパンセミコンダクター

(4) 「地域企業情報ガイダンス」におけるブースプレゼン動画のライブラリ化

「地域企業情報ガイダンス」における企業ブースの説明風景撮影は諸事情により実施しなかった。なお、「地域創造学」において作成した若手技術者インタビュー動画については、Blackboardにアップロードし、全学生が視聴できるようライブラリー化した。

(5) 「パテコンサミット in 一関」の開催

日時 平成31年1月18日(金) 10時30分～12時00分

場 所 管理・教育棟 第一講義室

講演題目：地域の未来を築く知的財産教育

講演者： 国土館大学 理事・副学長・教授（弁理士）飯田昭夫氏

開催趣旨：パテントコンテストほか、知財教育に熱心に取り組む先生方の相互研鑽、交流会により知財人材を地域で輩出すること。

参加者数：94名（学生87名，来賓2名，教員3名，職員1名，講演者1名）

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

【提言】

- ・地元企業の情報が学生に的確に伝わり、就職やインターンシップの際に地元企業を選択する学生が増えるように今後も推進して欲しい。
- ・学生支援の観点から、進路指導の分野で、録画収録の成果を、ガイダンス等で積極的に活用してもらえることが望ましい。

【対応】

- ・平成30年度の地域創造学では、4学科で企業技術者アンケートを実施した。
- ・録画収録した画像は、Blackboardにて全学生が視聴できるようにし、共通掲示板にて周知している。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

とくになし。

2.5 来年度の年度計画

- (1) 「一関高専 地域創造フォーラム」の開催
- (2) 「仕事と暮らしのイメージ湧くわくプロジェクト」の実施
- (3) 知的財産管理技能検定3級の誘致
- (4) 知財検定合格講座講習会（一般・学生向け）の実施
- (5) 高専祭におけるOBOG交流コーナーの実施
- (6) 「パテコンサミット in 一関」の開催

平成30年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：COC 実行委員会 COC 推進部会

報告者（役職・氏名）教授・貝原巳樹雄

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
部会長	貝原 巳樹雄	統括
委員	平林 一隆	
委員	伊藤 一也	
委員	梁川 甲午	

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

COC 実行委員会の自己点検評価報告書に同じ。

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

COC 実行委員会の自己点検評価報告書に同じ。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

部会として、改善の進言はなかった。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

COC 実行委員会の自己点検評価報告書に同じ。

2.5 来年度の年度計画

COC 実行委員会の自己点検評価報告書に同じ。COC 実行委員会が立案する活動・行事において、企画・実務に当たる。

平成 30 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：地域創成人材育成事業推進委員会

報告者（役職・氏名） 地域創成人材育成事業推進委員会委員長・戸谷一英

1 構成員および主な担当業務（一覧）

役職等	氏名	担当業務
委員長	戸谷 一英	委員会業務の掌握
委員（副センター長・部門長）	若嶋振一郎	地方創生部門
委員（副センター長・部門長）	滝渡 幸治	研究推進部門
委員（副センター長・部門長）	秋田 敏宏	人材育成部門
委員（副部門長）	二階堂 満	地方創生部門
委員（副部門長）	井上 翔	研究推進部門
委員（副部門長）	八木 麻実子	人材育成部門
委員	佐藤 昭規	産学官連携コーディネータ
委員（企画・産学連携担当）	千葉 正義	総務課長補佐、事務部門
委員	菊地 重人	特命教授（専任）
事務局	加藤 宏和	教育支援員（専任）
事務局	千葉 由美子	会務（専任）

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 地域創生人材育成事業推進委員会を開催する（9月から隔月開催を目処にする）。構成委員は、テクノセンター委員会所属教員8名＋総務課長補佐1名、EV人材育成事務局3名（厚生労働省事業雇用者）とする。
- (2) 岩手県と協力して厚生労働省の地域創生人材育成事業（以下3～7）を立ち上げる（EV人材育成コース。H30年度から3年（初年度は契約の関係で8月開始）、総委託費109,461千円）。
- (3) 企業技術者・高専生・求職者向けに「EVアカデミー」を開催する（平成30年8月～10月、6時間×計14回）。
- (4) 連携する工業高校や産業技術短大向けに「EVミニアカデミー」を実施する（平成30年8月～12月、6時間×2日間×実施機関数）。初年度実施機関は、産業技術短期大学校、花北青雲高校、黒沢尻工業高校。
- (5) 高度企業技術者等向けに「R&Dアカデミー」を開催する（平成30年10月～平成31年3月、週2時間以上×実施機関数）。企業とメンター教員と学生の組み合わせで、初年度は5課題程度を採択する。1課題あたり100万円を目処に予算措置する。
- (6) 上記3～5の成果報告会を年1回以上実施する。
- (7) 厚生労働省への申請書に定められた重要評価指標KPI（アウトプットおよびアウトカム指標）を目標とする。

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1) 地域創生人材育成事業推進委員会を開催した（9月12日、11月29日、2月12日、3月19日開催）。構成委員は、テクノセンター委員会所属教員8名＋総務課長補佐1名＋専任特命教授1名（厚生労働省事業雇用者）、に会務はEV人材育成事務局2名（厚生労働省事業雇用者）とした。
- (2) 岩手県と協力して厚生労働省の地域創生人材育成事業（以下3～7）を立ち上げた（EV人材育成コース。H30年から3年（初年度は契約の関係で8月開始）、総委託費109,461千円。平成30年度予算30,876千円、実績24,968千円）。
- (3) 企業技術者・高専生・求職者向けに「EVアカデミー」を開催した（平成30年8月～10月、6時間×計14回）。
- (4) 連携する工業高校や産業技術短大向けに「EVミニアカデミー」を実施した（平成30年8月～3月、6時間×2日間×実施機関数）。初年度実施機関は、産業技術短期大学校（矢巾校、水沢校）、花北青雲高校、黒沢尻工業高校、二戸高等専門学校。
- (5) 高度企業技術者等向けに「R&Dアカデミー」を開催した（平成30年10月～平成31年3月、週2時間以上×実施機関数）。企業とメンター教員と学生の組み合わせで、初年度は6課題を採択した。1課題あたり110万円を上限に予算措置した。
- (6) 上記3～5の成果報告会を、平成30年1月9日（中間報告会）、平成31年3月5日（最終報告会）の2回、一関高専で実施した。3月5日の特別講演としてアイシン東北代表取締役社長 吉田 強氏「将来の自動車業界に求められる人材とその育成」。
- (7) 厚生労働省への申請書に定められた重要評価指標 KPI（アウトプットおよびアウトカム指標）を目標とした。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

H29年度改善の進言：

- ・ なし

改善の進言への対応：

- ・ なし

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

初年度につきなし

2.5 来年度の年度計画

- (1) 地域創生人材育成事業推進委員会を開催する（令和元年6月から隔月開催を目処にする）。構成委員は、テクノセンター委員会所属教員8名＋総務課長補佐1名、EV人材育成事務局3名（厚生労働省事業雇用者）とする。
- (2) 岩手県と協力して厚生労働省の地域創生人材育成事業（以下3～5）を行う。
- (3) 企業技術者・高専生・求職者向けに「EVアカデミー」を開催する（令和元年6月～、6時間×計14回）。
- (4) 連携する工業高校や産業技術短大向けに「EVミニアカデミー」を実施する（令和元年6月

～、6時間×2日間×実施機関数)。初年度実施機関は、産業技術短期大学校、花北青雲高校、黒沢尻工業高校。

- (5) 高度企業技術者等向けに「R&D アカデミー」を開催する（令和元年6月～、週2時間以上×実施機関数）。企業とメンター教員と学生の組み合わせで、5課題程度を採択する。1課題あたり100万円を目処に予算措置する。
- (6) 成果報告会を年1回以上実施する。
- (7) 厚生労働省への申請書に定められた重要評価指標 KPI（アウトプットおよびアウトカム指標）を目標とする。

平成 30 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：” KOSEN4.0” イニシアティブ推進委員会

報告者（役職・氏名） ” KOSEN4.0” イニシアティブ推進委員会委員長・吉田 正道

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
委員長	吉田 正道（校長）	委員会業務の掌理
委員	明石 尚之（副校長（教務担当））	委員会業務
〃	白井 仁人（副校長（学生担当））	〃
〃	二本柳讓治（副校長（寮務担当））	〃
〃	戸谷 一英（副校長（研究・地域連携担当））	〃
〃	中山 淳（未来創造工学科長）	〃
〃	後藤 勉（事務部長）	〃
総務課	千葉 正義（総務課）	会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) ” KOSEN4.0” イニシアティブ事業の実施
- (2) ” KOSEN4.0” イニシアティブ事業に係る外部評価の実施

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

(1) ” KOSEN4.0” イニシアティブ事業の実施

教員からテーマを提出してもらい、学生の複合型学修効果を主として、本事業の目的に沿っているものを9つ選定し、予算配分などを実施した。採択テーマの複数教員（異なる学科・系から2名以上）から、テーマ設定に関する実施内容などを検討してもらい、具体的なコースワークを設定してもらった。

参加学生数は、51名（のべ52名）である。10月中旬以降に9つのテーマで順次、ミニラボコースワークを開始した。平成31年2月28日に「ミニラボ学生成果報告会」を、また、平成31年3月13日に「ミニラボ教員成果報告会」を開催した。

参加学生数は、当初目標は40名以上であったが、51名（のべ52名）という多くの学生が参加し、評価に値するものとする。

(2) ” KOSEN4.0” イニシアティブ事業に係る外部評価の実施

平成31年3月27日に「“KOSEN4.0” イニシアティブ外部評価委員会」を開催した。事業の概要及び、ミニラボテーマについて説明がなされた後、質疑応答が行われた。また、各テーマに対して評価していただき、いずれのテーマも十分な成果が得られた、との評価をいただいた。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

平成 30 年度限りの委員会であるため、平成 29 年度の改善の進言はない。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

なし。

2.5 来年度の年度計画

平成 30 年度限りの委員会であるため、平成 31 年度の計画はない。

平成 30 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：” KOSEN4.0” イニシアティブ専門部会

報告者（役職・氏名） ” KOSEN4.0” イニシアティブ専門部会部会長・明石 尚之

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
部会長	明石 尚之（副校長（教務担当））	部会業務の掌理
委員	中山 淳（未来創造工学科長）	部会業務
〃	若嶋振一郎（機械・知能系長）	〃
〃	藤田 実樹（電気・電子系長）	〃
〃	小保方幸次（情報・ソフトウェア系長）	〃
〃	照井 教文（化学・バイオ系長）	〃
〃	後藤 勉（事務部長）	〃
〃	山口 恭一（総務課長）	〃
〃	中山美喜也（学生課長）	〃
総務課	千葉 正義（総務課長補佐）	会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

” KOSEN4.0” イニシアティブ事業の実施

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

教員からテーマを提出してもらい、学生の複合型学修効果を主として、本事業の目的に沿っているものを9つ選定し、予算配分などを実施した。採択テーマの複数教員（異なる学科・系から2名以上）から、テーマ設定に関する実施内容などを検討してもらい、具体的なコースワークを設定してもらった。

参加学生数は、51名（のべ52名）である。10月中旬以降に9つのテーマで順次、ミニラボコースワークを開始した。平成31年2月28日に「ミニラボ学生成果報告会」を、また、平成31年3月13日に「ミニラボ教員成果報告会」を開催した。

参加学生数は、当初目標は40名以上であったが、51名（のべ52名）という多くの学生が参加し、評価に値するものとする。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

平成30年度限りの委員会であるため、平成29年度の改善の進言はない。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

なし。

2.5 来年度の年度計画

平成 30 年度限りの委員会であるため、平成 31 年度の計画はない。

平成 30 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：機械工学科

報告者（役職・氏名）機械工学科長・鈴木明宏

1 構成員および主な担当業務(一覧)

補佐	教務主事補		中嶋 剛		
	学生主事補		原 圭祐		
	寮務委員		八戸 俊貴		
	総務担当補佐		—		
	生産工学専攻長		中嶋 剛		
	副地域共同テクノセンター長		若嶋 振一郎		
学科長	鈴木 明宏				
担任	5M	正担	井上 翔	副担	鈴木 明宏
	4M	正担	土屋 高志	副担	村上 明
	3M	正担	伊藤 一也	副担	藤原 康宣
	2M	正担	—	副担	原 圭祐
	1	正担	—	副担	—
委員会 部会	JABEE 対応		鈴木 明宏	評価対応部会	—
	セキュリティ推進委員会		井上 翔	電子計算機専門部会	井上 翔
	環境事務局		井上 翔	自己評価委員	
	技術系コンテスト支援部会		伊藤 一也	図書館専門部会	鈴木 明宏
				国際交流委員長	村上 明
	保健管理センター運営委員会		原 圭祐	男女共同参画推進委員長	八戸 俊貴
	進路指導室		4M 担任		
室	広報室				
	機械工学実験まとめ		5年	八戸俊貴	4年
学科	就活指導担当		鈴木 明宏		井上
	レクリエーション委員		伊藤 一也		
	工場見学		4M 正担任+副担任		
	卒業研究プログラム作成		中嶋 剛		
	長岡技科大交流		(適宜)		
	機械学会東北支部連絡員		若嶋 振一郎		

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

(1) 学科会議を概ね月 1 回程度行う。

2.2 年度計画の実施状況および自己点検・評価内容

年度計画達成度は 60%。前期は月 1 回程度開催したが、後期は系会議に吸収することで科の独立開催を少なくしたためである。

進路については、過去 5 年ほどは就職/進学率は約 50% で推移していたが、今年度については就職 74% となった。専攻科推薦枠半減（8 人→4 人）、求人企業数の増加が影響していると思われる。また、就職業界についても、半導体・電気機器 48%、自動車 3% と例年とは逆転の様相となったことは興味深い。この要因は複雑であるが、岩手/宮城に半導体関連の上場企業が多い、設計開発職の希望が多い、業界がクリーン（不正のニュースがない）、学生の興味対象等が影響していると思われる。

2.5 来年度の年度計画

(1) 来年度、機械工学科学生は 4、5 年生のみとなるため学科長・系長を同一とし、機械・知能系としての業務と合わせ、同じタイミングでの学科・系会議開催のほか、学科内（および系内）の諸連絡、情報共有、運営等を進める。また、このために、電子媒体保存やペーパーレスを基本方針とする。

平成 30 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：電気情報工学科

報告者（役職・氏名） 電気情報工学科長・秋田敏宏

1 構成員および主な担当業務(一覧)

運営 委員会 構成員	副校長（教務担当）・教務主事		明石 尚之
	校長補佐（総務担当）		千葉 悦弥
	電気・電子系長		藤田 実樹
	電気情報工学科長		秋田 敏宏
他の 役職者	副地域共同テクノセンター長 （人材育成部門）		秋田 敏宏
	生産工学副専攻長		小野 孝文
担任	5E	正担任	小野 孝文
		副担任	秋田 敏宏
	4E	正担任	谷林 慧
		副担任	秋田 敏宏
	3E	副担任	八木 麻実子
委員会 部会 室 など	教務委員		小野 孝文
	学生委員		藤田 実樹
	寮務委員		奥村 賢直
	地域共同テクノセンター副部門長 （人材育成部門）		八木 麻実子
	情報セキュリティ人材育成事業 推進委員会		小池 敦
	環境事務局		明石 尚之
	教務委員会・ICT活用教育部会		千田 栄幸
	学生委員会・技術系コンテスト支援部会		奥村 賢直
	メディアセンター運営委員会・ 図書館専門部会		豊田 計時
	メディアセンター運営委員会・ 電子計算機室専門部会		谷林 慧
メディアセンター運営委員会・ 電子計算機室		千田 栄幸 小池 敦	

（注）運営委員会構成員・役職者・担任・学科選出による委員会等において、それぞれの充て職もしくは委員等選出による他の委員会構成委員等については省略。

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 学科会議を概ね月 1 回程度行う。

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1) 学科会議は、校務や出張による構成員の日程調整が困難で、電気・電子系会議と合同で 5 回のみの実施となった。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

会議とは別に個別の事案について、それぞれメール等による意見交換を実施している。しかし、定期的な会議としては開催していない。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

会議資料および議事録をサイボウズに掲載することで、会議欠席者への情報共有を行った。

2.5 来年度の年度計画

- (1) 学科会議を運営委員会後に概ね月 1 回程度行う。

平成30年度自己点検評価報告書

総合科学（人文社会領域・自然科学領域）

領域長（人文社会）津田大樹（自然科学）松尾幸二

1 構成員および主な担当業務(一覧)

総合科学人文社会領域

職名	氏名	主な担当業務
教授	渡辺 仁 史	2 J 副担任
教授	千葉 圭	メディアセンター長 図書館長 交際交流委員会副委員長 2 E 担任
教授	松浦 千 春	1-2 担任
教授	平林 一 隆	保健管理センター長 1-1 副担任
教授	津田 大 樹	総合科学人文社会領域長 1-4 担任
准教授	二本柳 譲 治	副校長（寮務担当） 寮務主事
講師	千田 芳 樹	2 J 担任
講師	下川 理 英	1-4 副担任

総合科学自然科学領域

職名	氏名	主な担当業務
教授	松尾 幸 二	総合科学自然科学領域長 2 M 担任
教授	高橋 知 邦	教務主事補 1-1 担任
教授	白井 仁 人	副校長（学生担当） 学生主事
准教授	高野 淳 司	学生主事補 2 E 副担任
准教授	谷川 享 行	寮務主事補 1-2 副担任
准教授	片方 江	1-3 担任
助教	山野 内 敬	
助教	佐藤 一 樹	3 E 副担任
助教	小松田 沙也加	評価担当補佐 1-3 副担任

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- ①連携授業：11月（環境に関する連携授業を実施し、学生の意識を高める。）
- ②公開講座：日程未定（数学科による中学生のための入試対策）
- ③一日体験入学・高専祭：（総合科学展示を行い、増募につなげたい。）
- ④スポーツテスト：4-5月（学生の健康維持増進に継続的に貢献する。）
- ⑤安全巡視や物品管理：（教育研究環境の継続的な安全確認、責任ある物品管理）
- ⑥授業改善：（各科目内で指導方法や評価方法の改善・工夫を検討する。）
- ⑦次年度本校4年次へ編入学する予定の生徒への数学の事前指導：
（本校へ編入学してからスムーズに授業に入っていけるよう、指導する。）

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- ①連携授業は計画通りに実施された。11月21日（水）特別活動の時間帯に全体説明を行い、教

科ごとに関連する項目を取り上げた授業が展開された。学生の環境問題への意識を高め、学習科目の関連性についても示すことができた。

②公開講座は12月15日（土）10時～15時に実施された。過去の高専の入試問題（数学）の解説を行った。実際の入試問題を解きながら、解法や考え方等について解説するとともに、解き方のヒントなどの資料を提供した。中学生の参加が96名あり、高専入試へ関心を十分に高める成果があった。

③一日体験入学・高専祭では管理棟1階の（1年3組）教室を会場として総合科学の教育研究内容の教科書の展示、物理実験器具の展示などを実施した。体験入学の模擬授業（地理）では2日間で約120名の参加があり、学校紹介として大きな成果があった。

④スポーツテストは学生の健康の維持と増進に資することをはかり4-5月の体育の時間に実施された。

⑤安全巡視は平成30年11月5日（月）10:00～実施された。総合科学教員室、体育館の巡視が行われた。

⑥授業改善に関わる事項として、教務委員会主催による研究授業では自然科学領域の「基礎数学I B」の研究授業が実施された。1月11日（金）に1年生3組の4組の2クラスで実施され、その後の意見交換会などを通して、授業改善についての検討がなされた。

⑦次年度本校4年次へ編入学する予定の生徒への数学の事前指導は、12月から1月にかけて8回にわたり実施された。本校へ編入学してからスムーズに授業に入っていけるよう予定通りに実施することができた。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

進言では「教科ごとの会議も開催記録を残して欲しい。」「低学年への補習がしっかり行われている点が評価できる。」という2点の指摘を受けた。補習については数学、英語において以前から継続して実施されている。数学は水曜日、英語は金曜日の放課後に実施された。期間ごとに対象者の人数は変わっているが、概ね各クラス5～10名が受講した。教科ごとの会議開催記録については次にまとめて示す。

国語科：7月、次年度の教材（検定教科書）について。11月、次年度の教材（検定外）について。

12月、1月、2月、次年度の新設科目「人文社会科学Ⅱ」の内容、担当方法、シラバスについて。

英語科：英語ポートフォリオの作成について検討

数学科：授業内容等の打ち合わせのため随時開催

理科：必要に応じ随時開催、9月、12月には次年度のカリキュラムおよび担当科目の検討という内容で開催

体育科：隔週で開催し体育科の運営について協議

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

人文社会領域では学科改組に伴う新設科目として30年度より「人文社会科学Ⅰ」を開設した。統一のテーマを設定した上で、人文社会科学の担当者が専門分野を活かして講義を行うことによって、分野横断的な学習が可能となり、多角的に事象を捉える能力を身に付けることを目指している。

2.5 来年度の年度計画

- ①一日体験入学、高専祭での総合科学展示によって教育研究内容紹介を実施する。
- ②環境に関する連携授業を実施する。
- ③入試対策も含めて中学生向けに数学の公開講座を実施する。
- ④安全巡視などを通して教育研究環境の継続的な安全確認、物品管理を行う。
- ⑤継続的に授業改善を進める。
- ⑥次年度4年次編入生への数学の事前指導：

平成 30 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：機械・知能系

報告者 機械・知能系系長 若嶋振一郎

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
教授	柴田 勝久	
教授	鈴木 明宏	機械工学科長
教授	中山 淳	
教授	若嶋 振一郎	系長
教授	土屋 高志	
准教授	八戸 俊貴	
准教授	藤原 康宣	
准教授	中嶋 剛	
准教授	伊藤 一也	
准教授	村上 明	
准教授	三浦 弘樹	
准教授	原 圭祐	
講師	井上 翔	

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

(1) 機械・知能系としての広報活動の充実

未来創造工学科 機械・知能系として1年目であり、機械・知能系としての組織づくりを進めるとともに、系未配属の1年生向け新科目である系導入セミナーおよび1日体験入学、高専祭などを通して、対外的なアピールを積極的に実施する。

(2) 系業務の効率的実施

3年生以上は旧学科での体制であり、教務・学生指導・研究指導等の大部分は旧来通りの体制で動いている（系教員は機械工学科+制御情報工学科教員で構成されている）。機械工学科等と連携しながら既存業務を見直しつつ重複業務等の無駄を省くこととする。そのため、系会議は、本年度は原則として実施しないこととし、必要に応じてメール会議等で対応する。

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

(1) 機械・知能系としての広報活動の充実

- ・ 系導入セミナーでの機械・知能系の紹介を充実させ、アピールに努めた結果、最も多数の系配属希望者を獲得できた。
- ・ 1日体験入学、高専祭などでは機械・知能系としての展示を行い、対外的なアピールを積極的に実施でき、多数の来場者を得た。

(2) 系業務の効率的実施

- ・ メール会議に対するレスポンスが個人差が大きいため、緊急時の意思決定には向かないが、系としての業務は主に1、2年生向けの教務、入試関連のみにとどまったこともあり、メール会議等でとくに支障なく業務を遂行できた。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

該当なし

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

該当なし

2.5 来年度の年度計画

(1) 3年生以上の新学科カリキュラムへの対応

専門科目の3年生に新学科カリキュラムが適用されるため、4年生・5年生科目の担当者の決定や、内容などを具体的に検討する。さらに専攻科改組を見据えたカリキュラム検討を開始する。

(2) 研究する機械・知能系への組織づくりのための業務効率化

機械・知能系は研究論文の作成や、共同研究・受託研究などの採択が比較的多いが、さらなる研究力向上をはかるためには、時間的な余裕を生み出すための業務効率化をはかる必要があり、これまでの系の業務を見直し、無駄な会議の削減、ペーパーレスとするなどの効率化をはかる。

平成 30 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：電気・電子系

報告者（役職・氏名） 電気・電子系長 藤田実樹

1 構成員および主な担当業務(一覧)

運営 委員会 構成員	副校長（教務担当）・教務主事		明石 尚之
	校長補佐（総務担当）		千葉 悦弥
	電気・電子系長		藤田 実樹
	電気情報工学科長		秋田 敏宏
他の 役職者	副地域共同テクノセンター長 （人材育成部門）		秋田 敏宏
	生産工学副専攻長		小野 孝文
担任	5E	正担任	小野 孝文
		副担任	秋田 敏宏
	4E	正担任	谷林 慧
		副担任	秋田 敏宏
3E	副担任	八木 麻実子	
委員会 部会 室 など	教務委員		小野 孝文
	学生委員		藤田 実樹
	寮務委員		奥村 賢直
	地域共同テクノセンター副部門長 （人材育成部門）		八木 麻実子
	情報セキュリティ人材育成事業 推進委員会		小池 敦
	環境事務局		明石 尚之
	教務委員会・ICT活用教育部会		千田 栄幸
	学生委員会・技術系コンテスト支援部会		奥村 賢直
	メディアセンター運営委員会・ 図書館専門部会		豊田 計時
	メディアセンター運営委員会・ 電子計算機室専門部会		谷林 慧
メディアセンター運営委員会・ 電子計算機室		千田 栄幸 小池 敦	

（注）運営委員会構成員・役職者・担任・学科選出による委員会等において、それぞれの充て職もしくは委員等選出による他の委員会構成委員等については省略。

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 一日体験入学および高専祭で系のPRを行う。
- (2) 系会議を概ね月1回程度行う。

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1) 一日体験入学において、新任の先生の研究紹介が加わり、来場者に系についての理解をより一層深めてもらえるような内容になった。高専祭では、大幅に内容や展示の配置を見直し、新たな内容を加えたため、これまでより来場者の興味、関心を引くことができるようになった。
- (2) 系会議は、校務や出張による構成員の日程調整が困難で、電気情報工学科会議と合同で5回の実施(そのうち3回は特に議題なし)、および年度末単独で2回の開催となった。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

会議とは別に個別の事案について、それぞれメール等による意見交換を実施している。しかし、定期的な会議としては開催していない。

2.4 前年度からの改善(変更)項目(前述の改善の進言への対応以外)

会議資料および議事録をサイボウズに掲載することで、会議欠席者への情報共有を行った。

2.5 来年度の年度計画

- (1) オープンキャンパスや高専祭で系のPRを行う。
- (2) 系会議を運営委員会後に概ね月1回程度行う。

平成 30 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：情報・ソフトウェア系

報告者（役職・氏名） 系長・小保方 幸次

1 構成員および主な担当業務(一覧)

氏名	校務	担任等	系内分担等	その他
豊田 計時	図書委員会			
小野 宣明		4S 正担任	一日体験入学	
小保方 幸次	情報・ソフトウェア系長 電子計算機室長 (情報セキュリティ推進責任者) 情報セキュリティ人材育成事業推進委員長			全国高専連合会 高専プロコン実行委員会
千田 栄幸	電子計算機室員 (電子計算機室専門部会) 情報セキュリティ人材育成事業推進委員会		情報処理技術者試験窓口担当	高専機構 情報戦略推進本部 情報セキュリティ部門員 全国高専連合会 高専プロコン実行委員会 ※平成 30 年 7 月～平成 31 年 1 月まで在外研究
佐藤 陽悦	学生委員	5S 正担任	高専祭 情報処理技術者試験窓口担当	
小池 敦	情報セキュリティ人材育成事業推進委員会			
小林 健一	電子計算機室員 (電子計算機室専門部会) 保健管理センター運営委員会	生産工学副専攻長		(親和会理事)

	男女共同参画推進委員会			
佐藤 智治	寮務主事補 国際交流委員会 情報セキュリティ人材育成事業推進委員会	3S 副担任		
水津 俊介	学生委員会 技術系コンテスト支援部会 環境事務局	4S 副担任		
早川 知道				特命准教授
佐藤 建				特命助教

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 一日体験入学における系のPR活動
- (2) 高専祭における系のPR活動

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1) 一日体験入学において、今年度は系の紹介動画を制作し、説明において活用した。
- (2) 高専祭において、各研究室の研究内容に関する展示やデモを行った。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

該当なし

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

- 2.2に記載のとおり、系の紹介動画を制作した。
- また、系会議の情報共有のため、Teamsの活用を開始した。

2.5 来年度の年度計画

- (1) 一日体験入学における系のPR活動
- (2) 高専祭における系のPR活動
- (3) 系教員間の情報共有や意見交換のためのTeamsの効果的な利活用

平成 30 年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：物質化学工学科、化学・バイオ系

報告者（役職・氏名）物質化学工学科長・二階堂 満

1 構成員および主な担当業務

運営委員会構成員	副校長（研究・地域連携担当） 地域共同テクノセンター長		戸谷 一英		
	校長補佐（評価担当）		大嶋江利子		
	物質化学工学科長		二階堂 満		
	化学・バイオ系長		照井 教文		
	技術室長		二階堂 満		
その他の役職者	教務主事補		照井 教文		
	学生主事補		中川 裕子		
	寮務主事補		渡邊 崇		
	物質化学工学専攻長		岡本 健		
	総務担当補佐		貝原巳樹雄		
	副地域共同テクノセンター長		滝渡 幸治		
担任	5C	正担	貝原巳樹雄	副担	二階堂 満
	4C	正担	木村 寛恵	副担	本間俊将
	3C	正担	佐藤 和久	副担	岡本 健
	2C	正担	滝渡 幸治	副担	大嶋 江利子
委員会部会	ハラスメント防止対策室		中川裕子	図書館専門部会	戸谷一英
	知的財産部会		貝原巳樹雄	電子計算機専門部会	佐藤 和久
	COC 実行委員		貝原巳樹雄 梁川 甲午	技術系コンテスト支援部会	本間俊将
	テクノセンター運営委員		二階堂 満	環境事務局	二階堂 満
	保健管理センター運営委員		二階堂 満	セキュリティ推進委員	佐藤 和久
室	進路指導室		4C 担任	国際交流委員会 副委員長	岡本 健

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 学科系会議を概ね月1回程度実施する。
- (2) 学科系のPR活動を多方面で実施する。

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

物質化学工学科（化学バイオ系）の教育・研究・学生指導等が円滑に行えるように、定期的に学科系会議を開催し、教員間で密な連絡を取り合っている。5年生に対しての就職・進学への支援、各学年での進路指導も学科全体で教員間での連携と情報共有をしながら行ってきた。地域貢献活動も積極的にいき、岩手化学工学懇話会等の活動を通じて教育研究面での講演会などを学科として支援してきた。特に、化学工学一関セミナー（岩手化学工学懇話会と一関高専物質化学工学科が主催）は今年で第28回目を迎え、本校学生と地域の方々が100名程参加いただき、化学工学の普及を通じて地域貢献にも力を注いできた。

教育支援面においては、成績不振者やメンタル的に問題を抱えている学生も多くいるが、本人の状況を教員間で情報を共有するように務めた。本科学生のみならず専攻科学生の一部学生に対しては、手厚い支援が必要になる場合もあり、その際には、学科内教員間で連携を取りながら担任・副担を中心に学生・保護者への対応を丁寧に行ってきた。今後、メンタルヘルス面での学生支援については、担任・副担のみならず保健管理センターとの密な連携が必要と考えチーム支援が望ましいと考えている。また、メンタルヘルス支援学生への対応に関しては、教職員がセミナー等にも参加し、さらに勉強していく必要を感じている。

また、ここ数年は、化学・バイオ系（化学・生物系）への志願者が減少傾向にあると感じる。中学生や地域へのPR活動の改善と強化が望まれる。

2.3 前年度からの改善（変更）項目

- ・学科系会議において、学生の動向について常に詳細に意見交換を実施しながら、各クラスの状況（学生の成績や学校生活）について学科内の教員で情報共有するように努めた。
- ・H30年度後期には、学力等の不振の学生に対しての補講（週3、4回程度、放課後に実施）を学科教員が協力にて実施し、学生の基礎学力の向上に努めた。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

なし

2.5 来年度の年度計画

- (1) 学科系会議を概ね月1回程度実施する。
- (2) 学科系のPR活動を多方面で実施する。

最近、化学・バイオ系（化学・生物系）への志願者が減少傾向にあると感じる。中学生や地域へのPR活動の改善と強化が望まれ、次年度の最重要課題と考えた。

化学・バイオ系に改組となり授業カリキュラムなどが変更になっている。また、専門科目の授業時

間数も減少している。学生の学力低下が懸念されているので、今後は学力向上に向けて更なる授業改善等が必要と感じている。